



ハイブリット屋根材

かわら
Eやね  Roof

施工説明書

本州仕様 デラックス

もくじ

① 安全上のご注意	1
② 施工前の工具の確認	3
③ デラックス 使用部材表	4
④ 下地防水紙の施工	6
⑤ 木下地の施工	7
直打ち施工(棧木なし仕様)	9
⑦ 本体の施工	12
直打ち施工(棧木なし仕様)	12
重要事項(本体の基本的な締結方法)	13
⑧ 各部の仕上がり	15
⑨ 壁際の施工	20
直打ち施工(棧木なし仕様)	20
⑩ スガリ部の施工	24
直打ち施工(棧木なし仕様)	24
⑪ 雪止めの施工	25
⑭ 仕上げのタッチアップ	26
⑫ 各部の納まり	27

①安全上のご注意

この度はアルミック ハイブリット屋根材「EやねかわらROOF」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
「EやねかわらROOF」を長期間安全にご使用いただくため、製品および施工上の注意をよく読み、必ずお守りください。

⚠危険

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されます。

- ・強風・雨天・降雪・雷鳴時及び屋根面が濡れている場合は施工しないで下さい。落下及び落雷事故の恐れがあります。
- ・高所作業は十分に気をつけてください。事故の恐れがあります。
- ・屋根材は電線などに触れないよう取扱い施工してください。感電事故の恐れがあります。

⚠警告

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- ・専用カッター(ギロチン)は使用後毎に必ず刃を下ろした状態で置いてください。
指やその他の体の部分の切断事故の恐れがあります。
- ・屋根材は 0.39mm の薄板鋼板が基材です。端部及びカット断面の取扱いには十分注意して下さい。
けがをする可能性が想定されます。

⚠注意

取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負う危険及び物的損害の発生が想定されます。

- ・建築基準法・消防法など建築用途・施工地域に適合した仕様をしてください。
- ・施工の際には、ヘルメットを必ず着用し必要に応じ安全带などの適切な保護具の着用をおこなってください。
- ・施工期間中、毎日の作業終了後には屋根面の清掃をしてください。
- ・屋根面表面に傷がついてしまった場合速やかに、補修をおこなってください。錆が発生する恐れがあります。
- ・シーリング・補修材などはご使用方法をご確認の上で正しくご使用ください。
- ・電気工具などの工具をご使用の際は各工事の取扱い説明書にしたがって正しくご使用ください。またその配線などは漏電しないものをご使用ください。

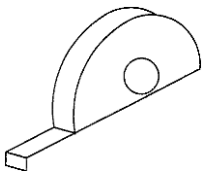
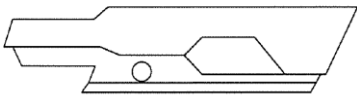
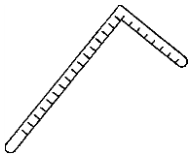
注意

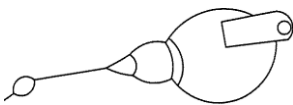
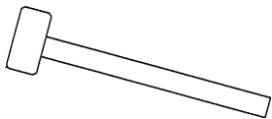
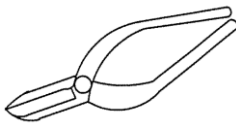
次のような注意を守らないと、製品の破損の原因になります。危険を伴う場合もあるので、必ず守ってください。

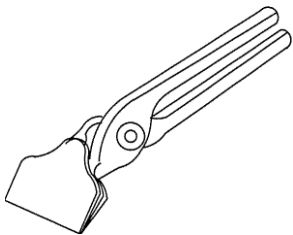
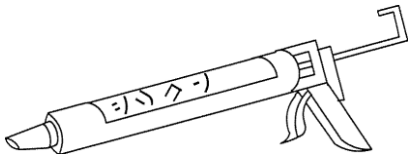
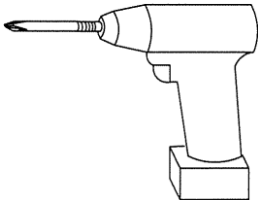
- ・本体表面に火気を近づけると表面塗膜が劣化する恐れがあります。たばこなどの火の取扱いに気を付けてください。
- ・製品の保管は、地面に直接置かず、シートを敷き、台木に乗せ防水シートをかけてください。
- ・施工時は基本的にタイル前端部谷部を歩行するようにしてください。
- ・切断はディスクグラインダーなどの電動切断機では絶対に切断しないでください。
本体表面に切粉が付着し錆が発生する恐れがあります。切断は専用カッターにて施工してください。
- ・EやねかわらROOFは2.5寸勾配未満の屋根面には施工しないでください。
また90°以上の屋根面には施工しないでください。
- ・施工は必ず、施工マニュアルに従った方法にて納めてください。
特殊納めなどの部位が発生する場合には事前に必ずご相談ください。
- ・タイルの締結釘などにメッキの処理が規定以下のものを使用すると、電蝕作用が起き、アルミ層が腐食しますので、必ず釘・ビスは専用のものやステンレス系のものを使用してください。
- ・躯体への取り付けビス類については、現場の条件及び構造に適したものを使用してください。またスチール製のアンテナ・ベランダなど、錆の発生し易いものを接触させますと、もらい錆の恐れがあります。アルミやステンレス製のものを取り付けられるようにしてください。
- ・電気・ガス・水道の工事が必要な場合には必ず専門の業者に依頼してください。
- ・施工後タイル上にベランダ・クーラー・温水器・アンテナなどを取り付ける場合には、桟木を入れるなどして集中荷重を避け、荷重を分散させるようにしてください。
- ・防水を万全にするために下地に指定防水紙を使用し、接合部には適宜コーキングをおこなってください。
- ・製品の搬出入の際は、製品に直接、ワイヤー・ロープなどをかけないでください。変形・キズの原因になります。
- ・製品を取扱う際には必ず、軍手・皮手を使用してください。
- ・製品を地面で引き摺ったり、製品の上を引き摺ったりしますと擦り傷が発生し、美観をそこないますので、取扱いには十分気を付けてください。
- ・強風時の荷揚げ及び施工は避けてください。風により製品が飛ばされる恐れがあります。
- ・屋根上に荷揚げした製品は、長時間放置しないで速やかに施工をおこなってください。
- ・製品はアルカリに対して弱い傾向があります。コンクリートモルタル等との接触は避けてください。
- ・外壁のモルタル塗り・吹き付け塗装等を後工事で施工される場合はタイルを汚したり破損しないよう、養生を十分に行い作業してください。屋根面を塗料などで汚すと取れなくなる可能性があります。
- ・アンテナの固定釘などをタイル面に直接打たないでください。

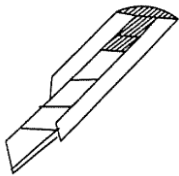
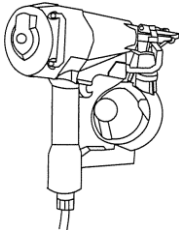
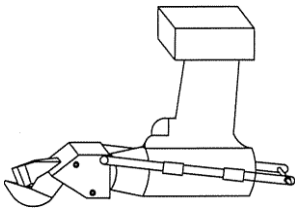
② 施工前の工具の確認

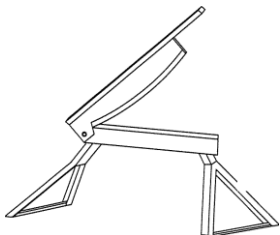
施工に際し、下記工具が必要となりますのでご準備をお願いします。

		
スケール	ハンマッカー	差し金

		
チョークライン	ハンマー	板金はさみ

		
板金つかみ	シリコン・カートリッジガン	インパクトドライバー

		
カッター	ネイルガンJN45R エアホースとコンプレッサー(低圧型) (本体上部 釘打ち施工の場合使用)	電動はさみ ターボニアHDHX


ギロチンカッター

③ デラックス 使用部材表

	<p>製品寸法: 1320×465mm 働き寸法: 1265×395mm 1枚あたりの重量: 3.3kg 1㎡あたりの枚数: 6.6kg 1㎡あたりの枚数: 2枚 施工可能勾配: 2.5寸以上 国土交通省不燃認定番号: NM2035</p>
<p>デラックス本体(自然石粒化粧鋼板)</p>	

<p>丸トリム 自然石粒仕上げ</p>	<p>トリムエンド 自然石粒仕上げ</p>
<p>換気棟リジットベントプラス</p>	<p>同質換気棟カバー 自然石粒仕上げ</p>
<p>同質雨押さえ 自然石粒仕上げ</p>	<p>本谷 65 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品</p>
<p>スターター/下地 15×45 用 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品</p>	<p>寄棟板金 3~8寸 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品</p>
<p>捨板 60 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品</p>	<p>バックアップ材(へこみ防止材) 自己消化性発砲スチロール</p>

丸トリム下地Ⅰ型 3~6.5寸 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品		丸トリム下地Ⅱ型 6.5~10寸 GL鋼板 0.35mmカラー塗装品	
 I型/40mm II型/50mm III型/60mm			
棟金具 ステンレス製		片棟スペーサー GL鋼板 0.35mmカラー塗装品	
加工用平板 自然石粒仕上げ		シーラー EPDM樹脂製	
4.2×25 と 4×50 の 2種 垂鉛メッキスクリュー ビス頭着色品	ステンレス製 色:黒		32mmと38mmの2種 垂鉛メッキ処理品(1巻120本)
正面ビス(500本入り)	雪止め金具	補修キット	太平釘コイルネイル
 1巻 6坪張		 幅 50mm程度のも	
下地防水紙(#940以上)		防水ブチルテープ(現地調達品)	
30×40 L=4,000mm	15×45 L=3,600mm	18×90 L=3,600mm	
棟・ケラバ・流れ壁際 (近似値可)(現地調達品)		軒先・棟・水平壁 (近似値可)(現地調達品)	
		棟・壁際・流れ壁際 (近似値可)(現地調達品)	

④下地防水紙の施工

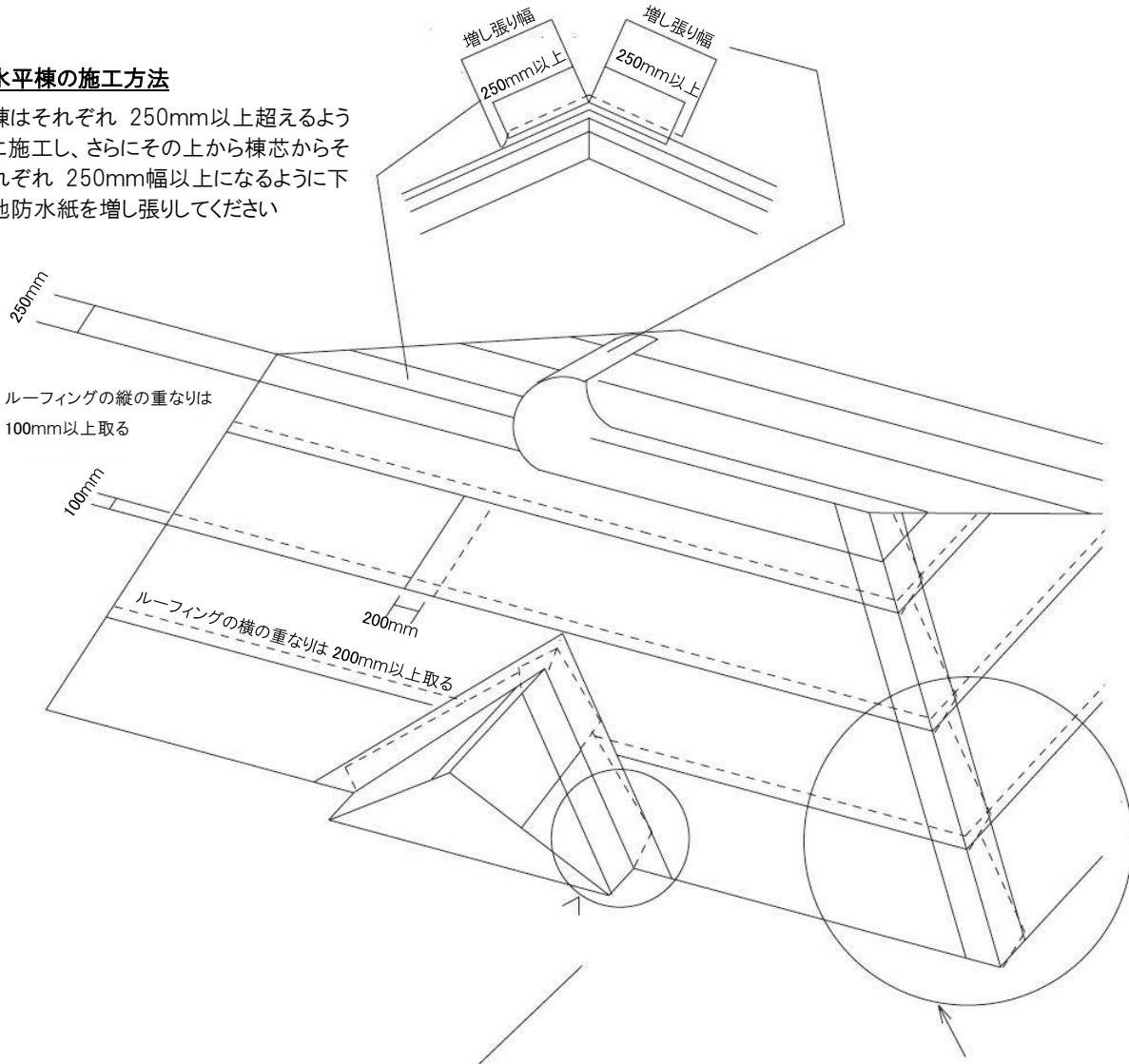


注意

EやねかわらROOF デラックスは、構造用合板 12mm以上の上に必ず施工してください。
(断熱フォームの上に直接屋根材を施工しないでください)

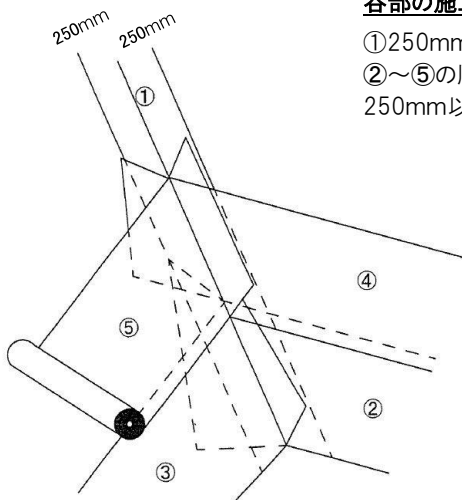
水平棟の施工方法

棟はそれぞれ 250mm以上超えるように施工し、さらにその上から棟芯からそれぞれ 250mm幅以上になるように下地防水紙を増し張りしてください



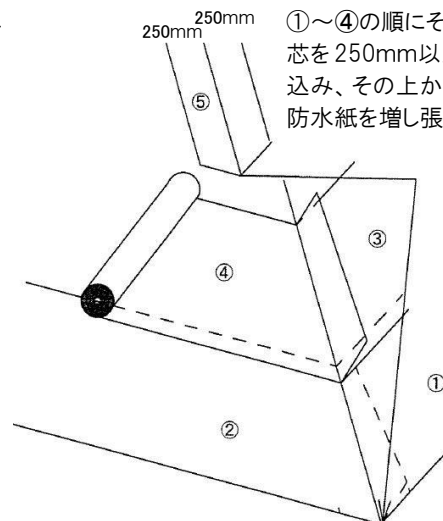
谷部の施工方法

- ①250mm幅のルーフィングを敷きこむ
- ②～⑤の順にそれぞれ谷芯を250mm以上越えるようにして敷きこむ



隅棟の施工方法

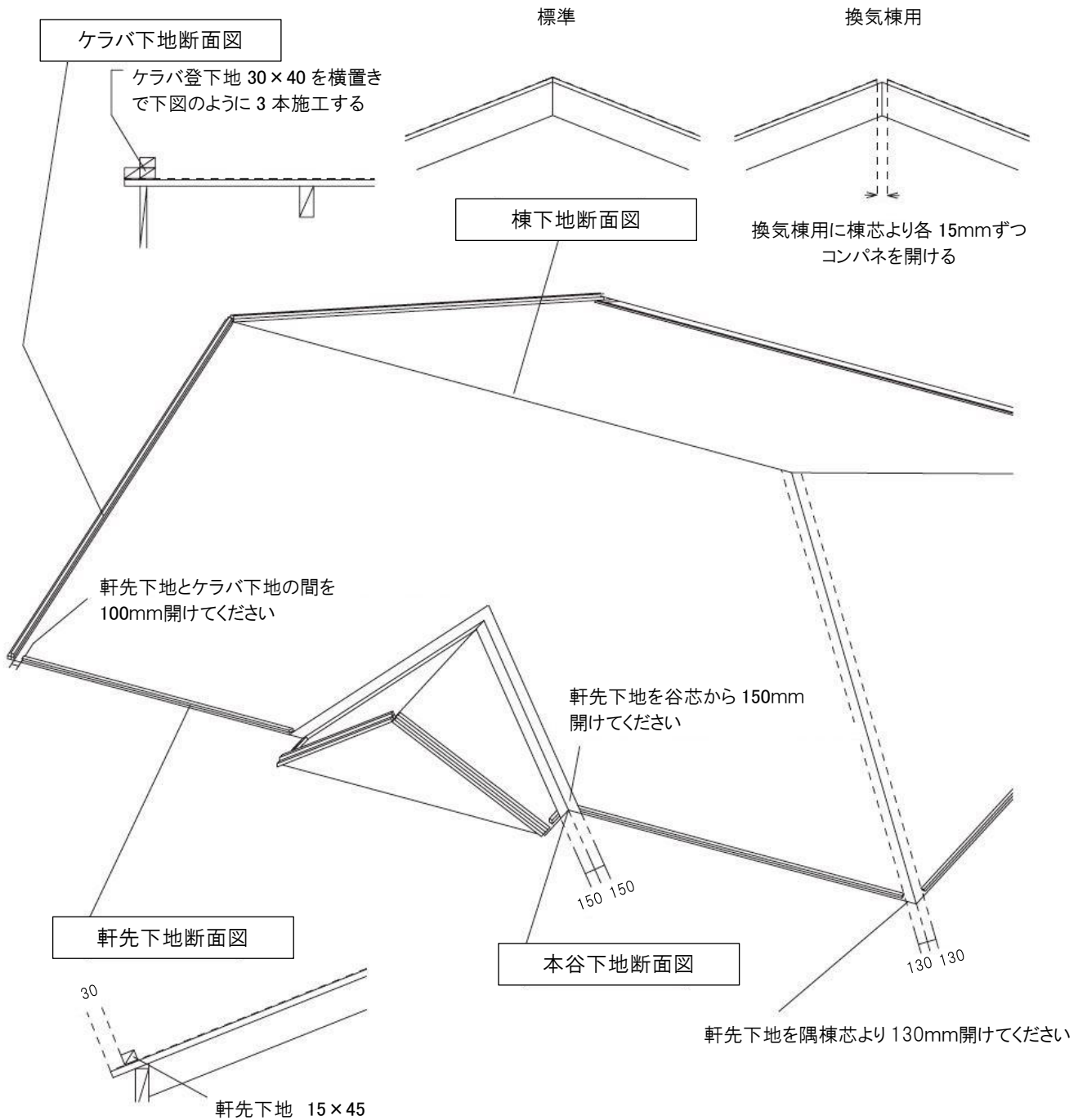
- ①～④の順にそれぞれ図のように隅棟芯を250mm以上越えるようにして敷き込み、その上から⑤250mm幅の下地防水紙を増し張りしてください



⑤木下地の施工

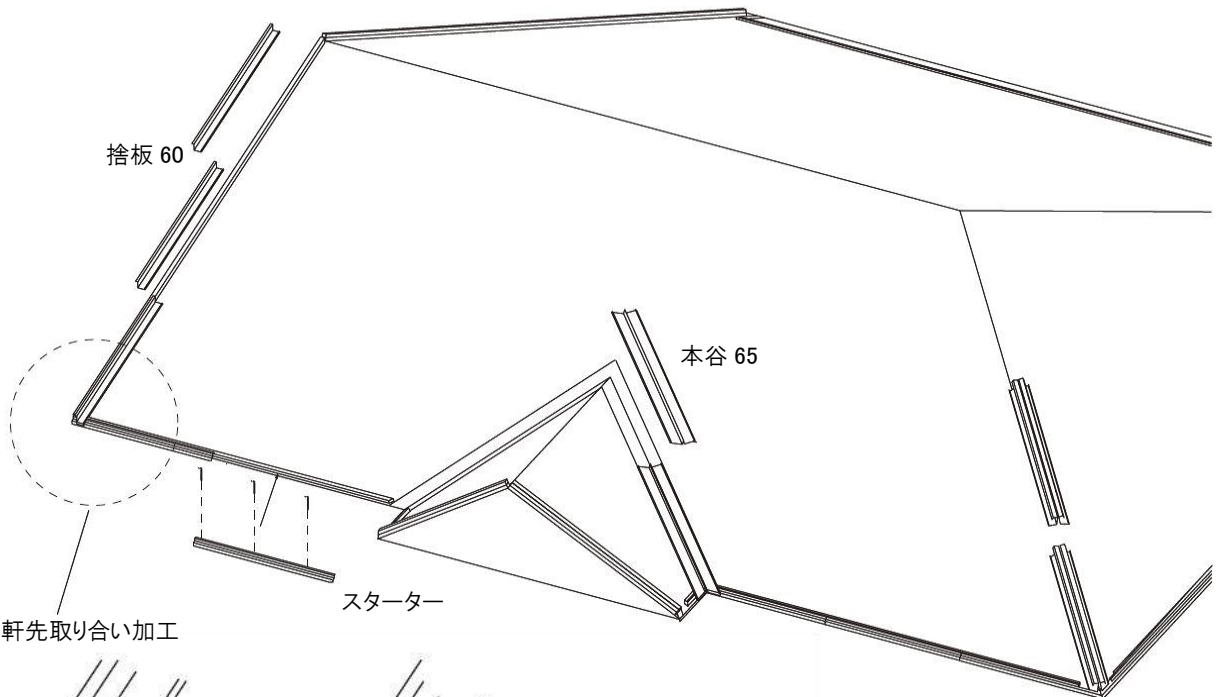
直打ち施工(棧木なし仕様)

屋根下地は下地垂木に効かせ、65mm以上の釘またはビスで締結してください

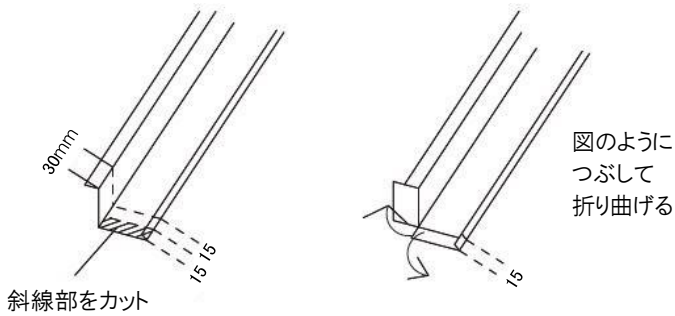


⑥ 板金金物の各部施工

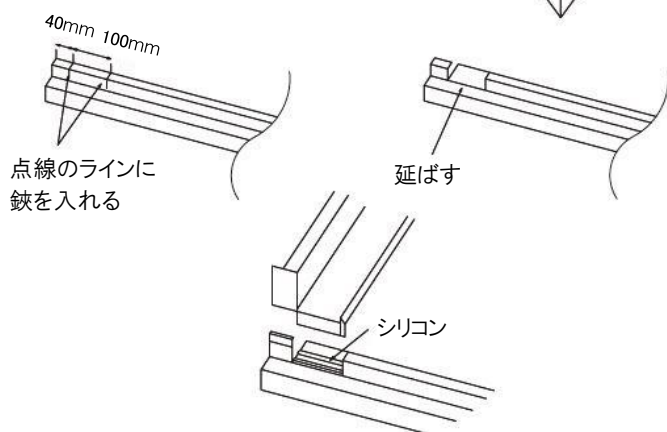
直打ち施工(棧木なし仕様)



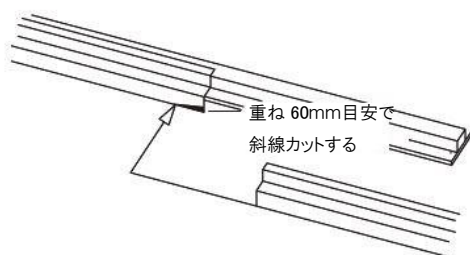
● 捨板 60 の軒先取り合い加工



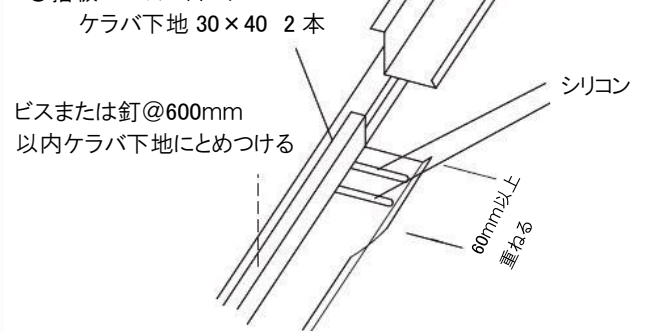
● スターターのケラバ取り合い加工



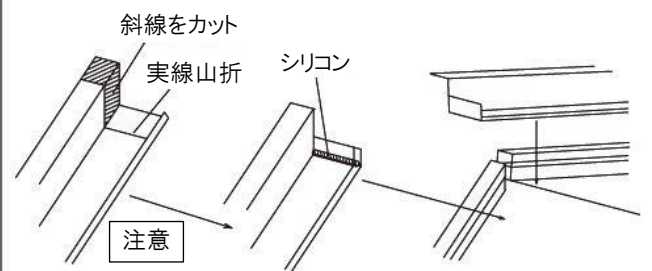
● スターターのジョイント



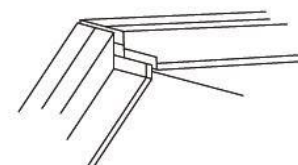
● 捨板 60 のジョイント



● 捨板 60 の棟頂部の合わせ加工



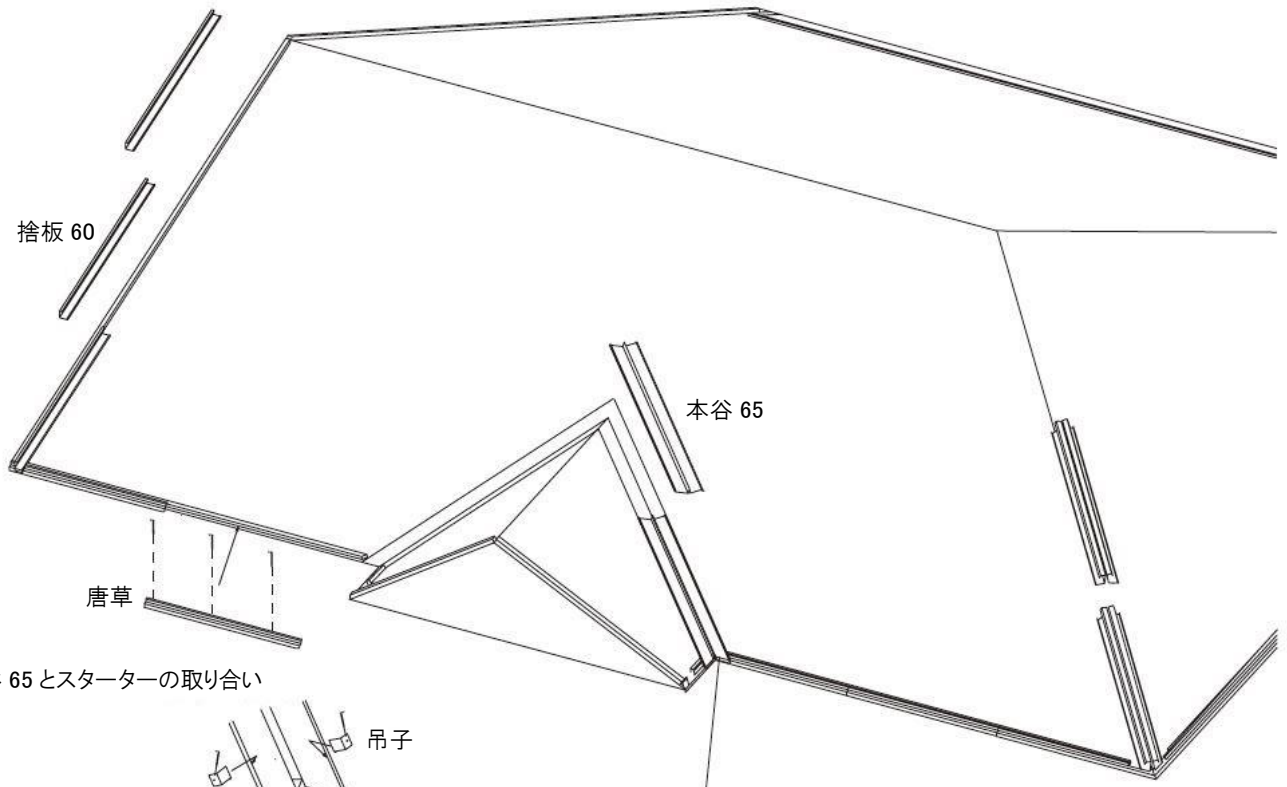
- ① 捨板のけがきは勾配に対して直角に行ってください
- ② 立ち上げてシリコン処理
- ③ 上図のように施工します



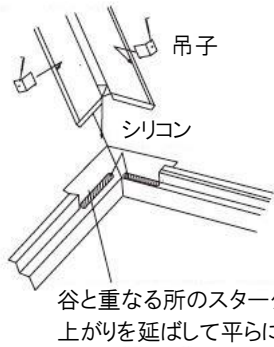
- ④ 棟のトリムをケラバ内側で納める場合は捨板を留め加工で納めます

直打ち施工(栈木なし仕様)

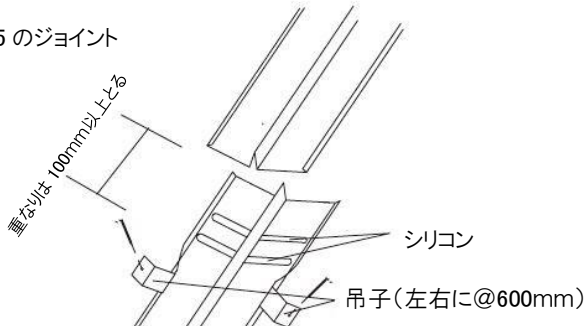
本谷 65 の施工



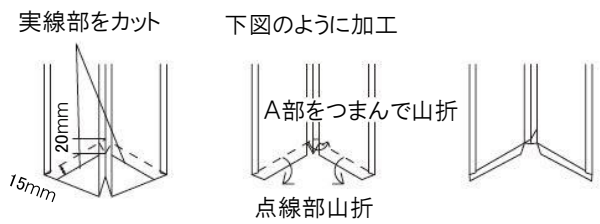
●本谷 65 とスターターの取り合い



●本谷 65 のジョイント



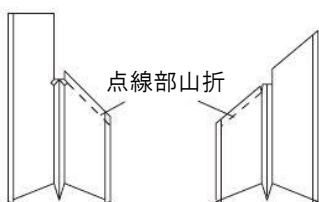
●軒先部の本谷 65 の加工



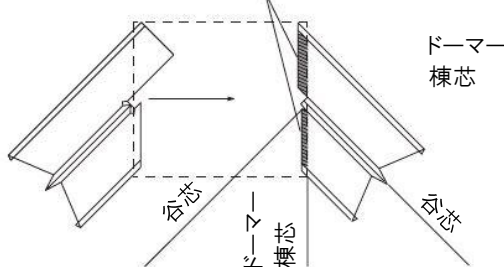
軒先に本谷 65 を合わせて図のようにケガキます

●本谷 65 のドーマー頂部の加工

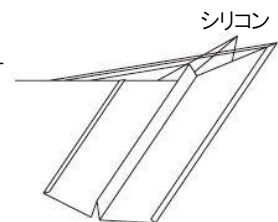
①谷板金を屋根の勾配に合わせて図のように加工します



②図の手順通りに重ねあわせ部シリコン本谷どうしを合わせます

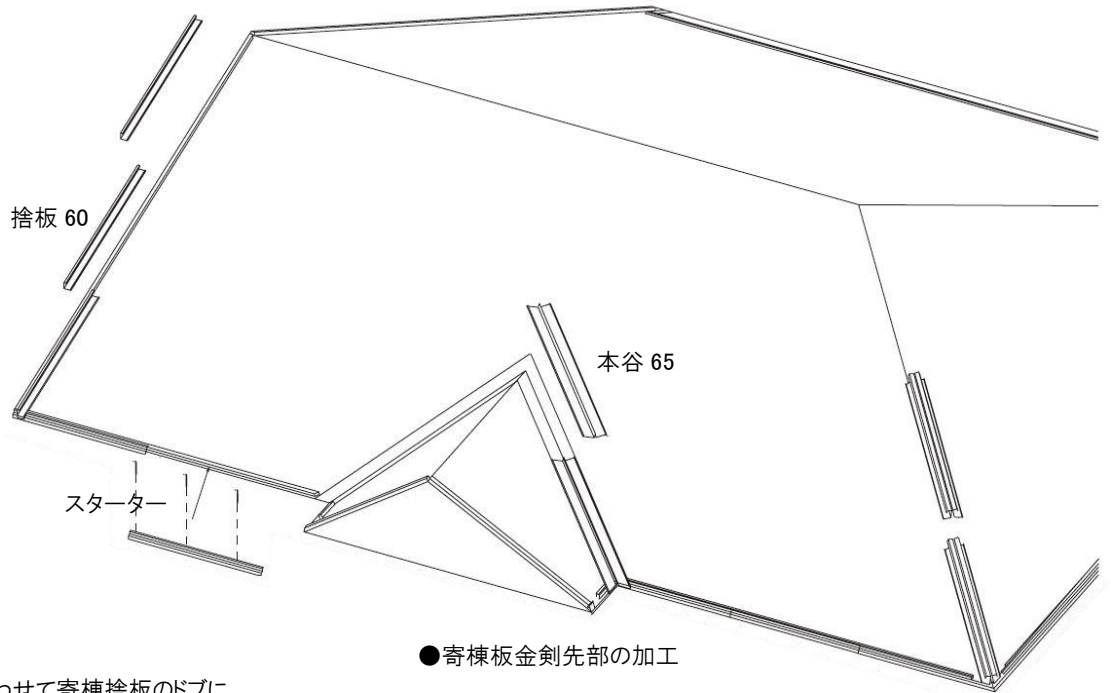


③重ね部上にシリコンを施工



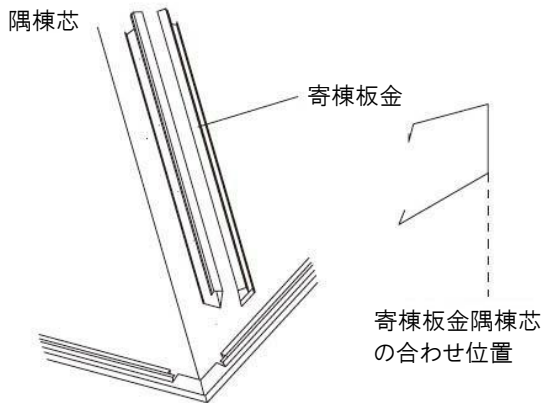
直打ち施工(栈木なし仕様)

●寄棟板金の施工



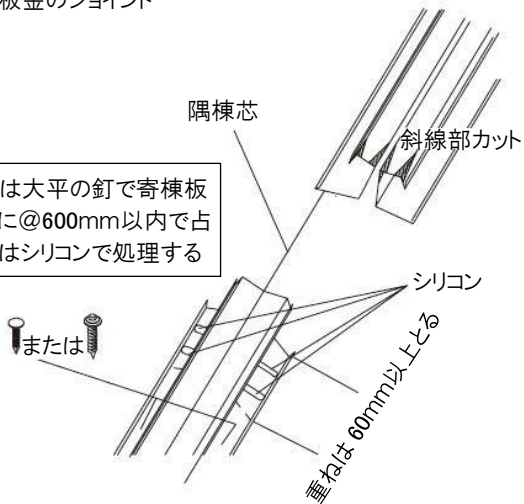
●寄棟板金の取り付け

寄棟板金は隅棟芯に合わせて寄棟捨板のドブにビス留めして、シリコンで処理します。

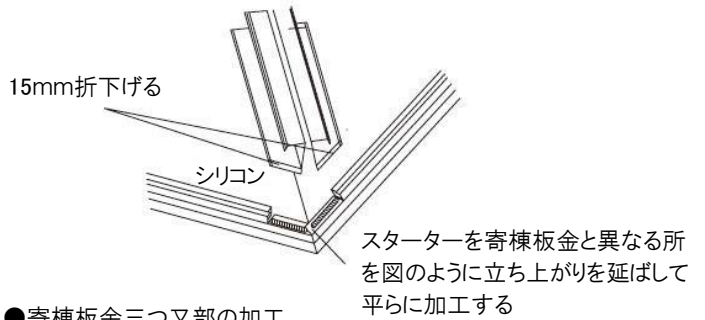


●寄棟板金のジョイント

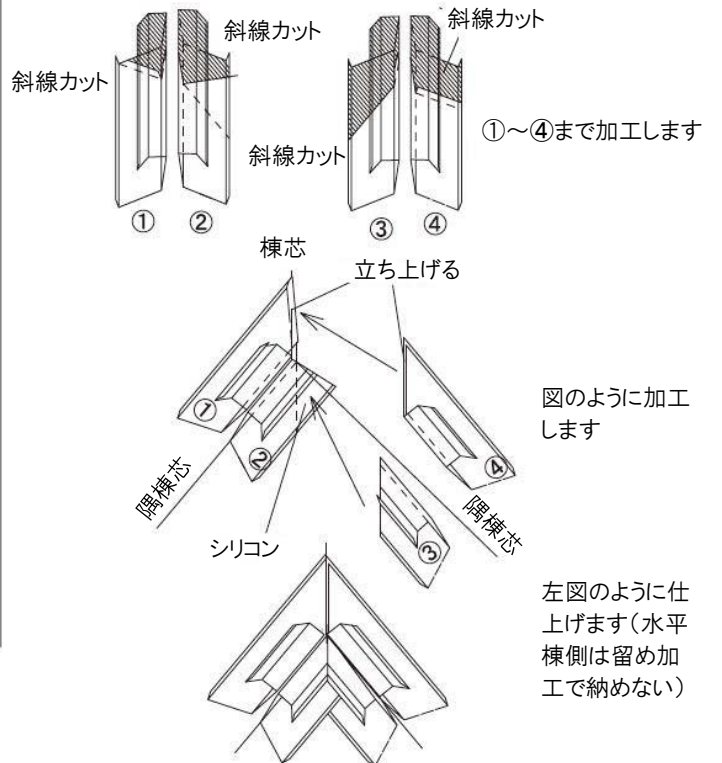
ビスまたは大平の釘で寄棟板金のドブに@600mm以内で占める。頭はシリコンで処理する



●寄棟板金剣先部の加工

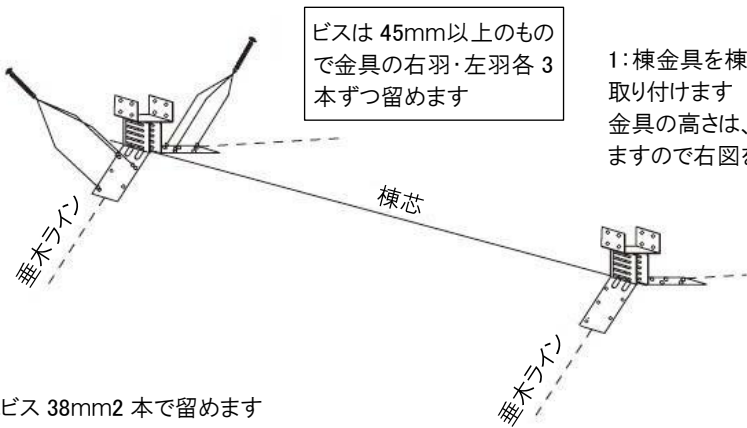


●寄棟板金三つ又部の加工



直打ち施工(棧木なし仕様)

棟金具の取り付け

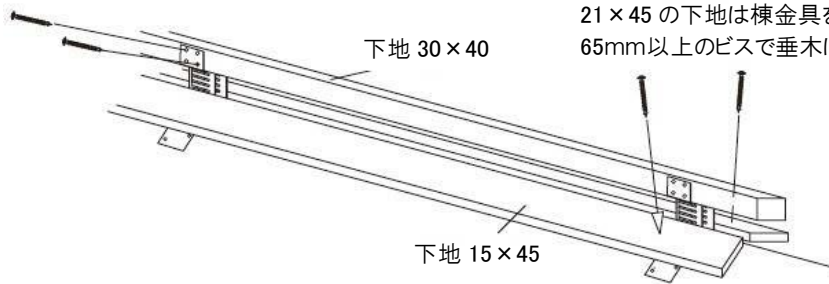


ビスは 45mm以上のもの
で金具の右羽・左羽各 3
本ずつ留めます

1: 棟金具を棟芯に通りをつけて
取り付けます
金具の高さは、各勾配に異なり
ますので右図を参照してください

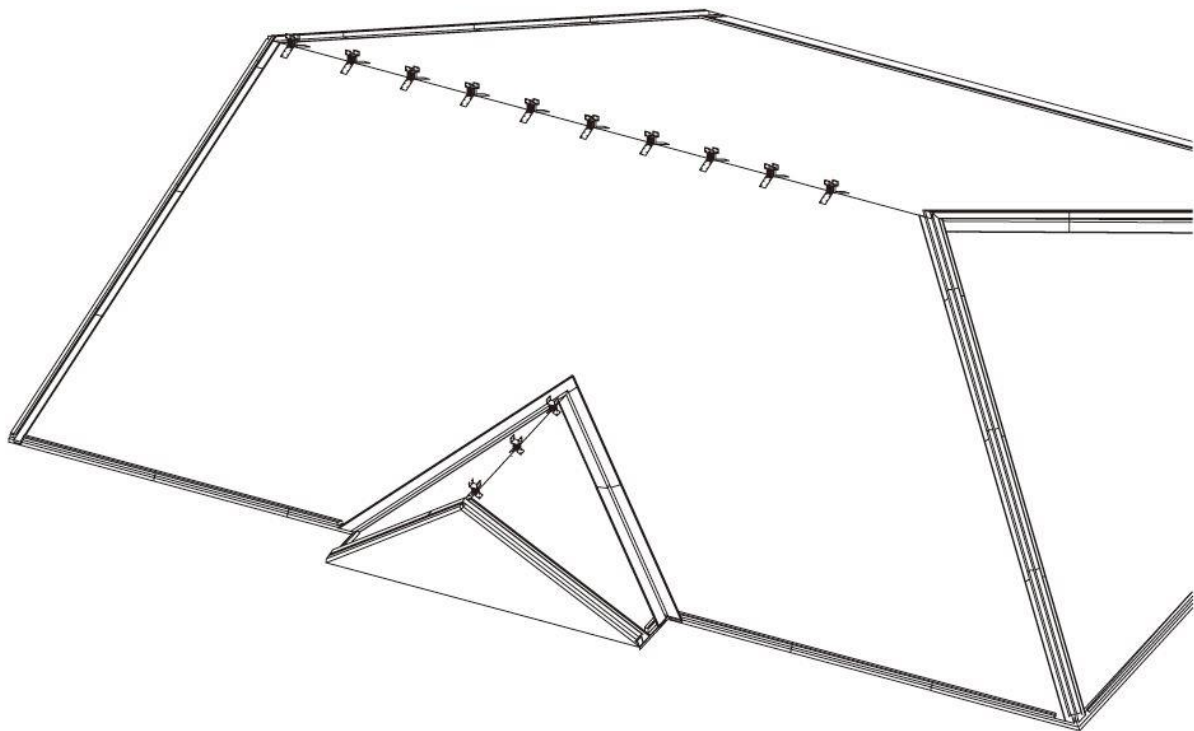
棟金具高さ	
3 寸	:60mm
4 寸	:60mm
5 寸	:50mm
6 寸	:50mm
7 寸	:40mm
8 寸	:40mm
9 寸	:40mm
10 寸	:40mm
12 寸	:40mm

30×40 の下地はビス 38mm2 本で留めます



21×45 の下地は棟金具をかわしながら
65mm以上のビスで垂木に効かせます

2: 棟金具取り付け後左図のように
30×40 の木下地を金具内に、21×45
の木下地を屋根面に施工します。

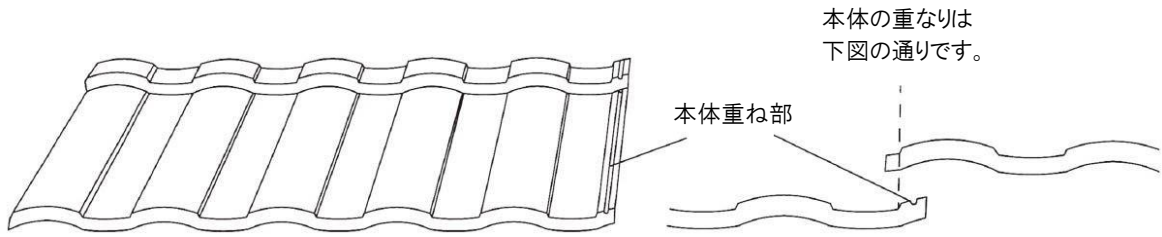


7 本体の施工

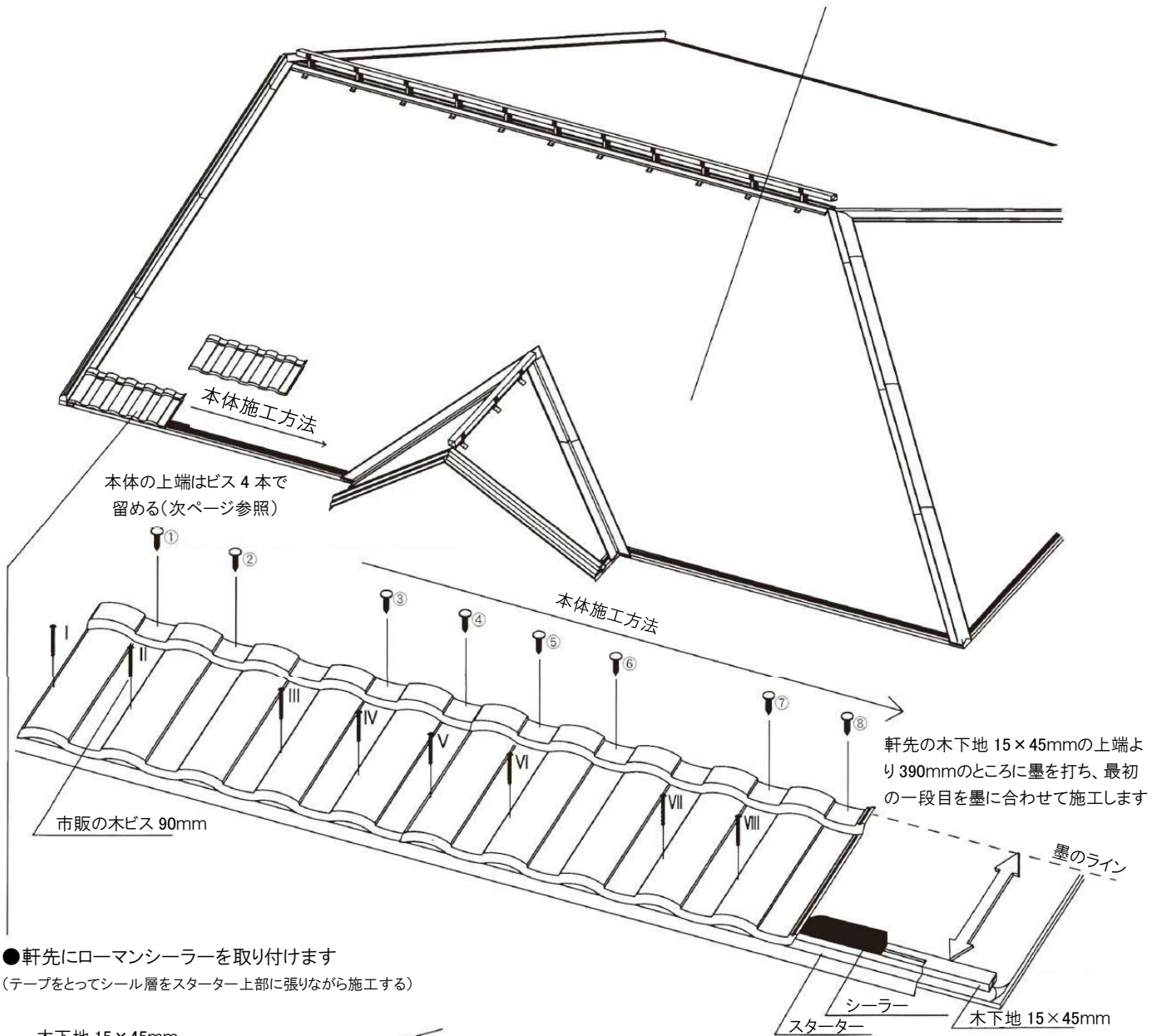
直打ち施工(栈木なし仕様)

軒先から見て右から本体を施工していきます。

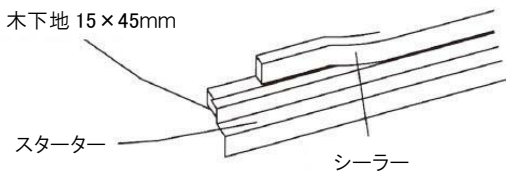
最初の段のみ本体先端部に上から4本ビス留めをして補修キットでタッチアップします。



特に最初の段は重ねがずれないようにしっかりと施工してください。



●軒先にローマンシーラーを取り付けます
(テープをとってシール層をスターター上部に張りながら施工する)



軒先はⅠ～Ⅶのように市販の木ビス 90mmで留め、シリコンと補修砂でタッチアップ

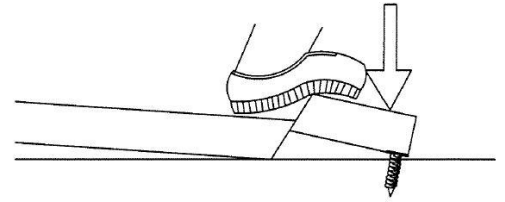
90mmの木ビスは軒先に取り付けたシーラーに打たないようにしてください

重要事項(本体の基本的な締結方法)

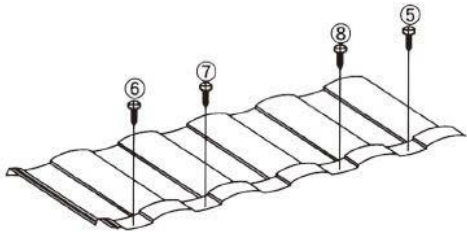
以下の手順を必ず守って施工してください。

- 1:最初にEやねかわらーフ本体正面に①～④の順序で専用正面ビス 25mmで下段の本体と一緒に留めつけてください。
- 2:本体横勘合上部をEやねかわらROOFの上下勘合部にしっかりと足で押さえて本体上部に、ビスまたは釘で⑤～⑧の順序で留めつけます

足でしっかりと本体上部が屋根下地に当るように押さえつけてビス留め



本体上部に締結する釘またはビスは図の箇所に留めます

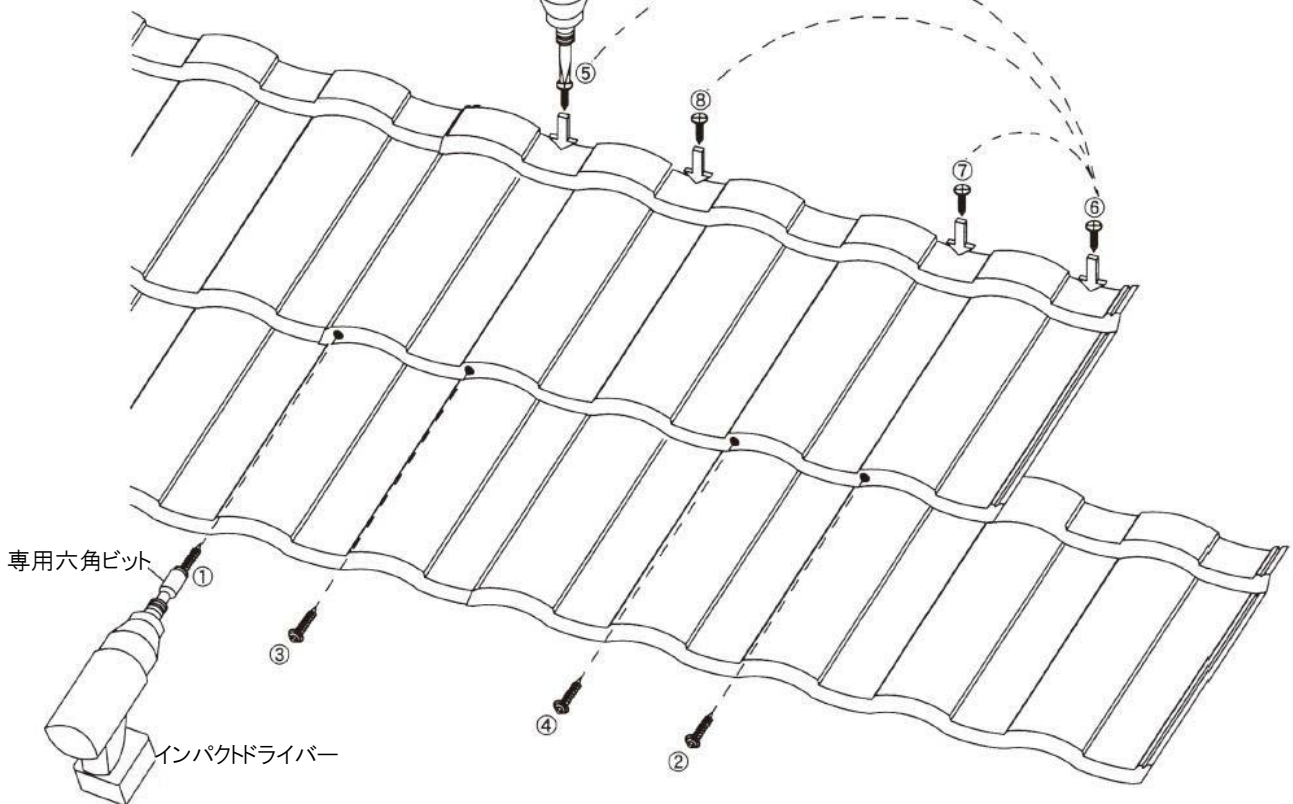


本体上部に締結するのは、野地板を貫ける長さで以下のものをご使用ください。

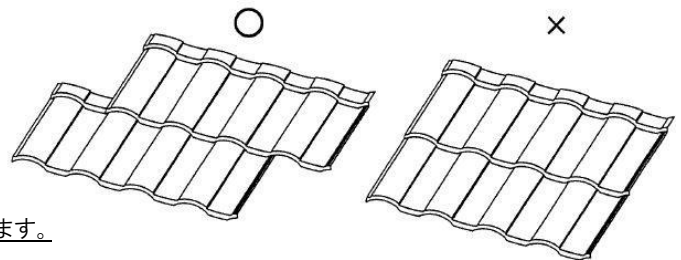
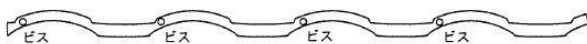


釘打ちの場合は右記寸法の垂鉛メッキ処理された釘を使用してください。

2段目以降は、①～④の本体下部を先にビス留めしてから、⑤～⑧の本体上部をビス留めしていきます。



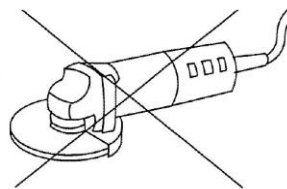
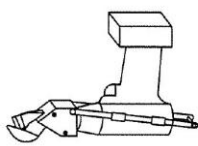
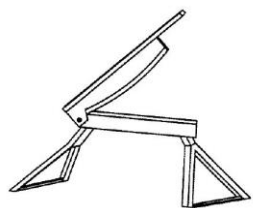
①～④は専用ビスを必ず使用してください。



①～④のビスは上図のように本体の山の正面に向かって締結していきます。

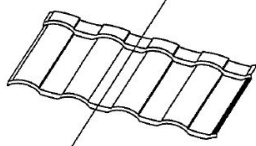
本体の目地は上の段と同じにならないようにしてください。

各箇所の切断は専用の切断機(ギロチン)で切断します。(縦・横・斜め 兼用です)
またはターボシアーHDを使って施工してください。



チップソーやディスクグラインダー
では切断しないでください。

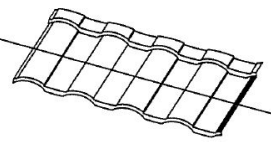
カットライン



①ケラバ部のカット

ケラバ捨板の内面に 20mm
開けで合わせる

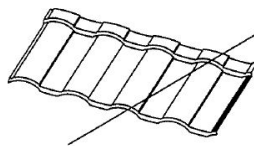
カットライン



②棟残寸法部のカット

棟の下地の先端に合わせる

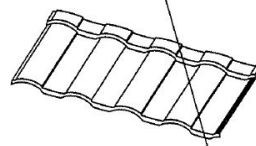
カットライン



③谷のカット

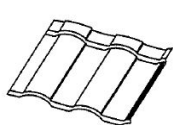
本谷中央部の立ち上がりの
根元に合わせる

カットライン

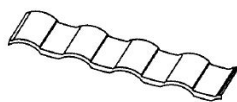


④隅棟のカット

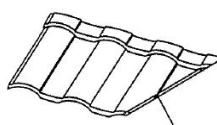
隅棟下地中央立ち上がり



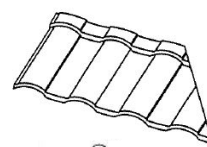
①



②



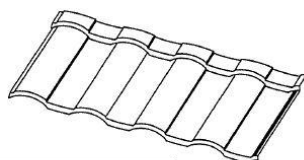
③



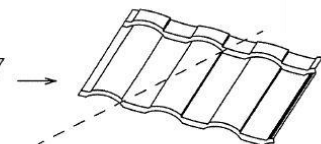
④

カットした小口を軽くつ
かんで腰をつけると谷
の通りがきれいに納まり
ます。

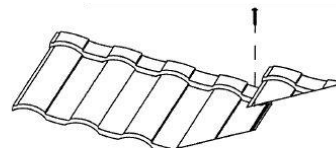
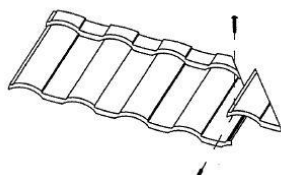
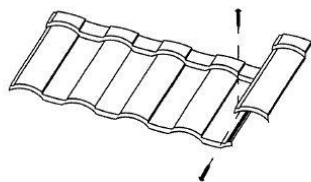
本体は効率よく使用してください。
あとでまとめてカットするとロスが大きくなります。



①ケラバのカット



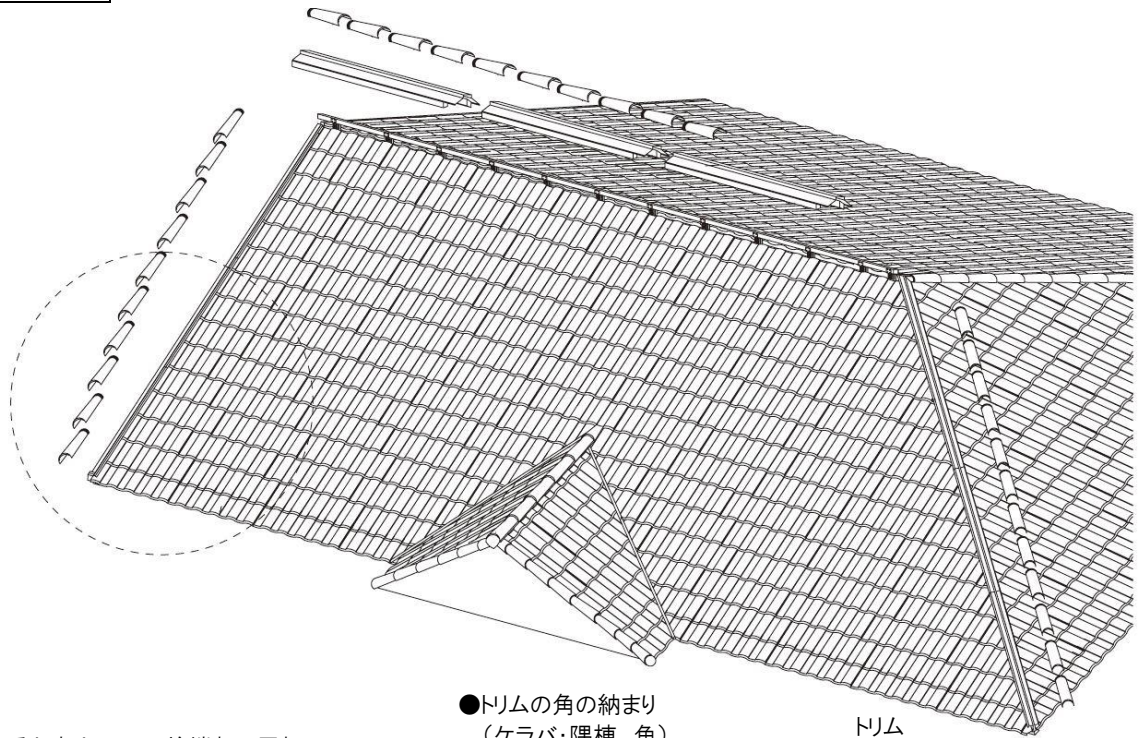
② ①の残材で次の段の隅棟のケガキ



上図のような小さい本体が入る場合は正面と上部に 4×16 のビスで大きい本体にあらかじめ結合させてから施工してください。

⑧ 各部の仕上がり

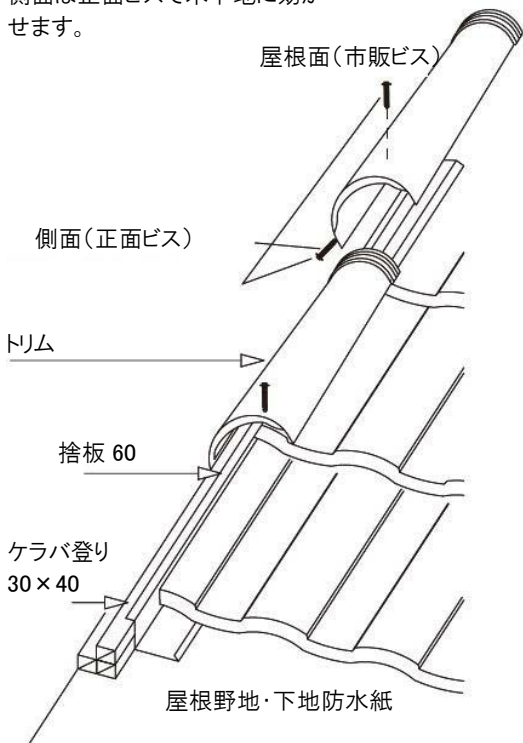
直打ち施工(栈木なし仕様)



●ケラバの納まり

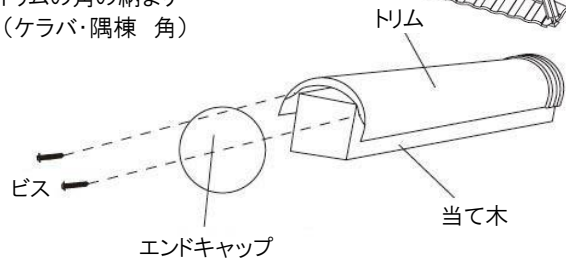
トリムのビスの締結は重ね部とトリムの前端部に屋根面と側面部より1つのトリムに対して計2箇所留めとなります

屋根面は市販のビスでケラバの下地木材に縫うように施工します。
側面は正面ビスで木下地に効かせます。



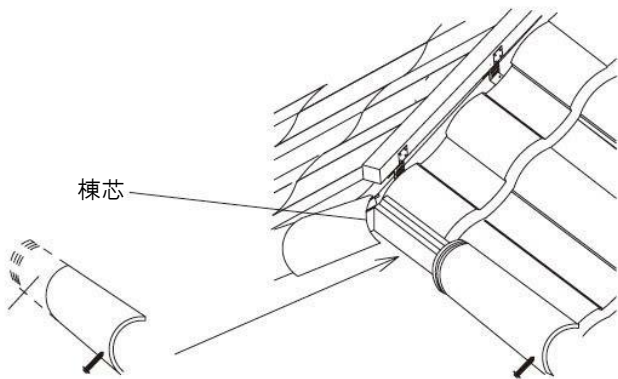
屋根面のビス頭はシリコンと補修キットでタッチアップ

●トリムの角の納まり (ケラバ・隅棟 角)

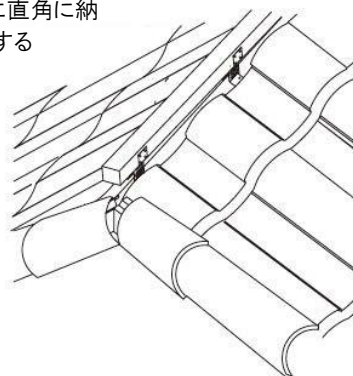


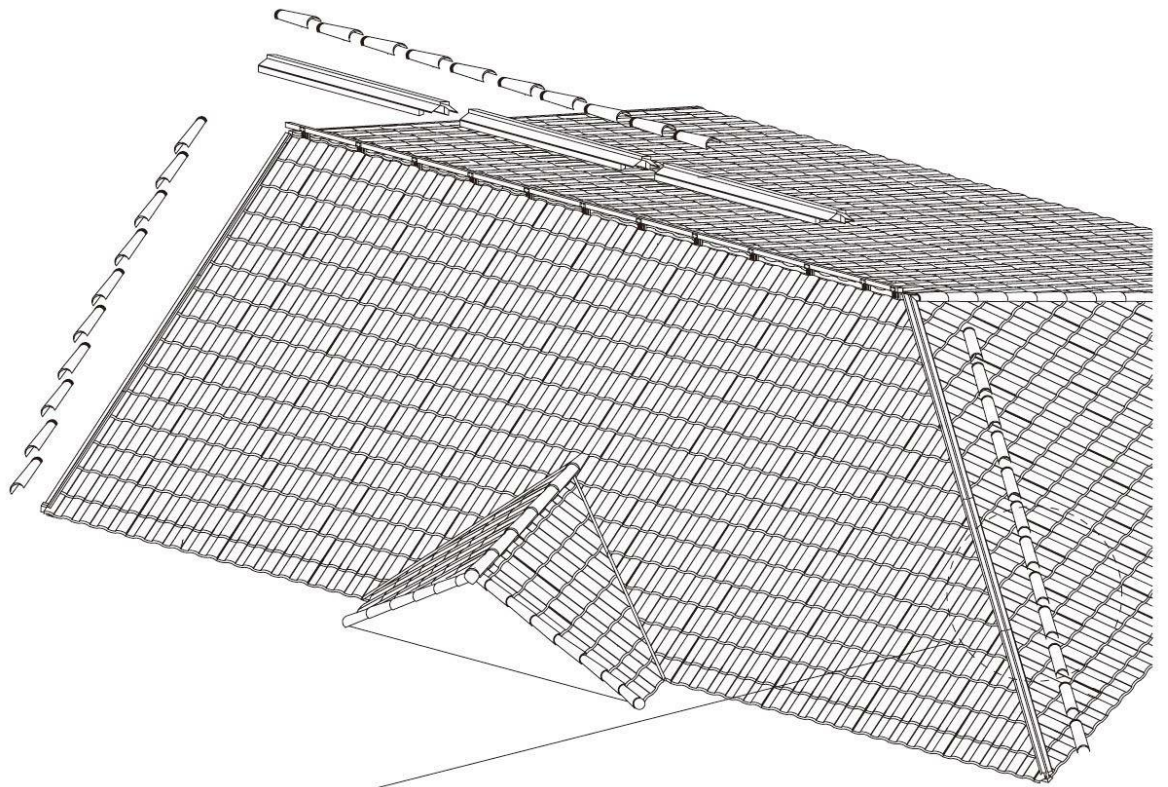
トリム妻上部の加工

注意: 勾配によってトリムを留め加工して納めますと棟のトリムがケラバのトリムを越えない場合があります。



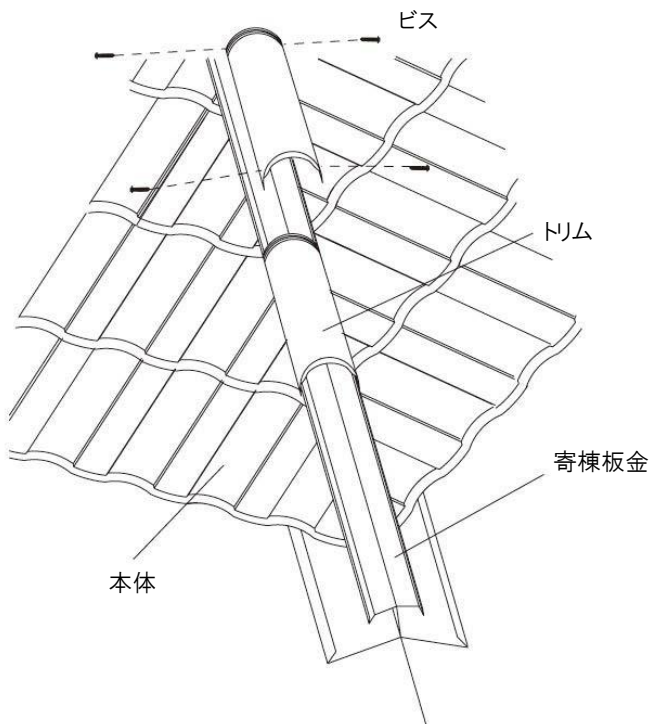
点線部を勾配に直角に納まるようにカットする



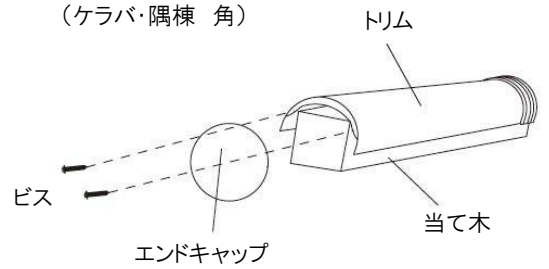


●隅棟の納まり

トリムの締結は図の箇所にビス 2 本を寄棟板金に縫うように施工します。

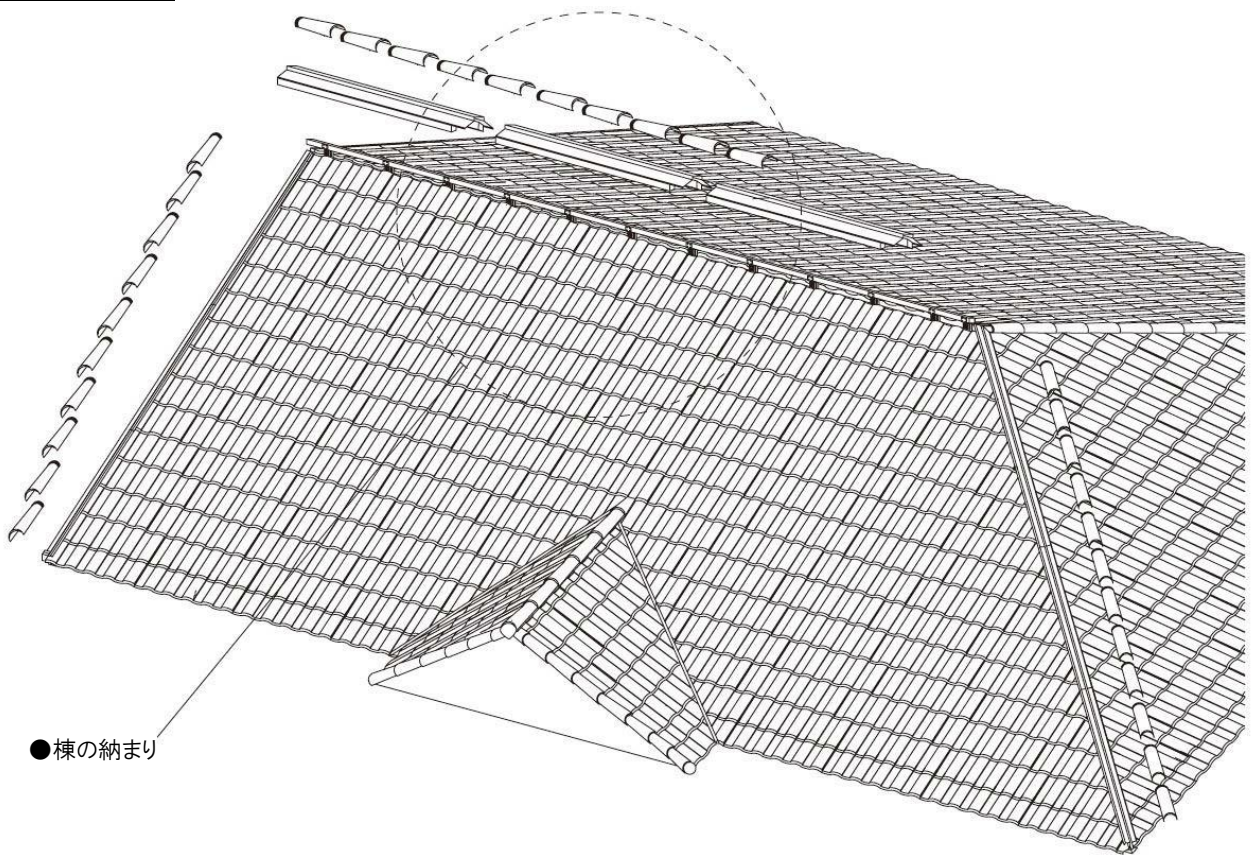


●トリムの角の納まり
(ケラバ・隅棟 角)

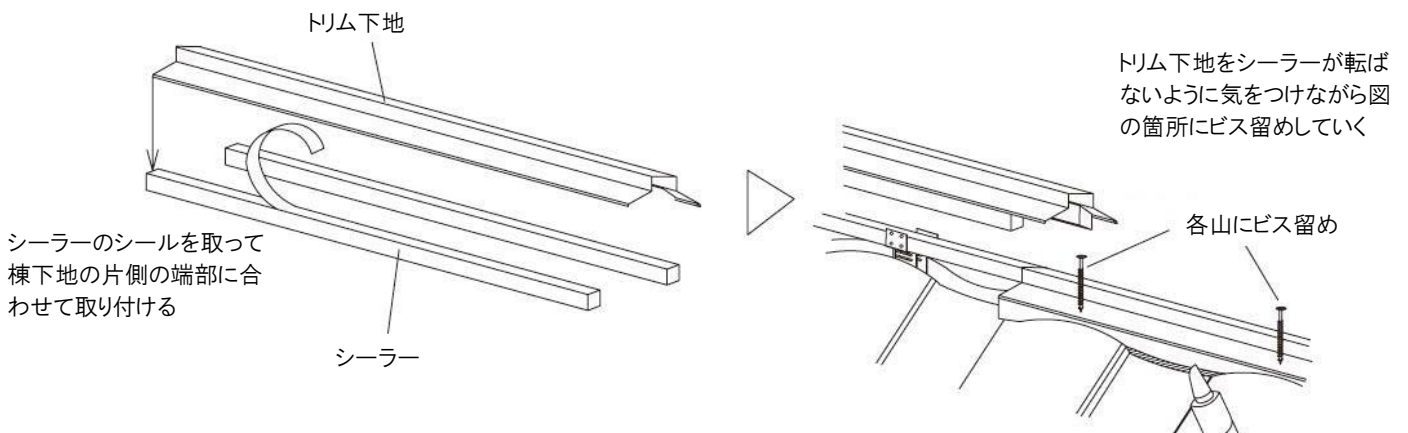


直打ち施工(棧魏なし仕様)

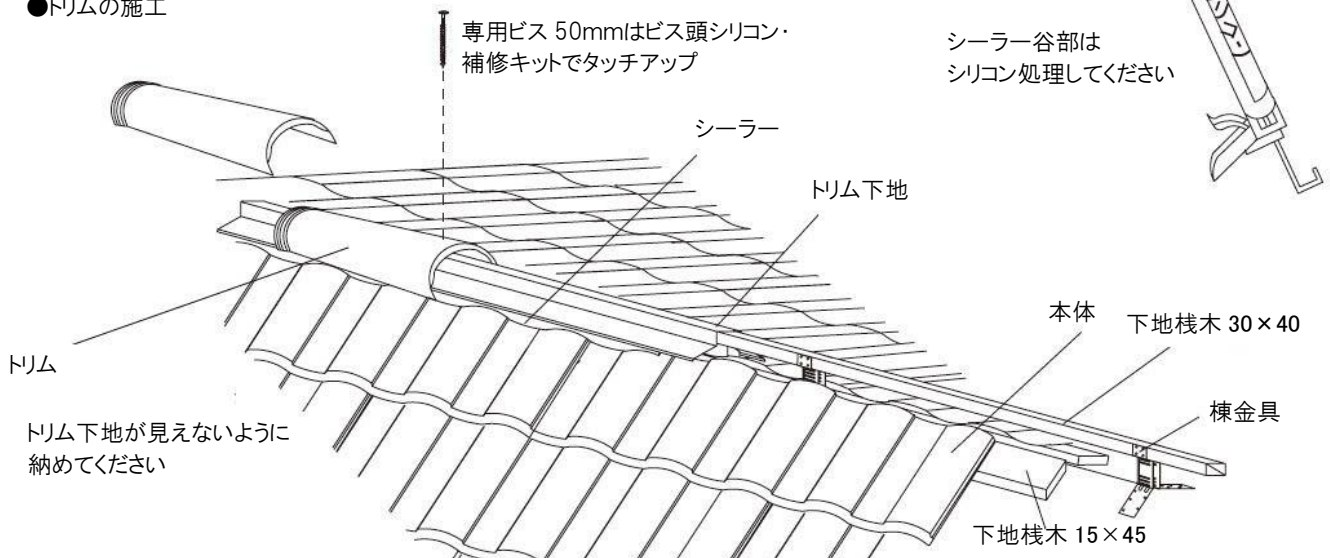
棟の仕上がり



●トリム下地とシーラーの施工

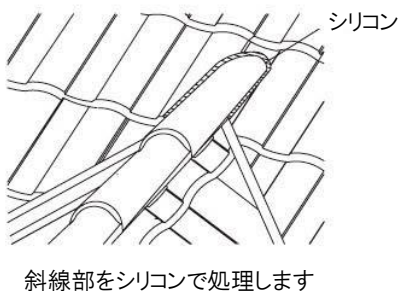
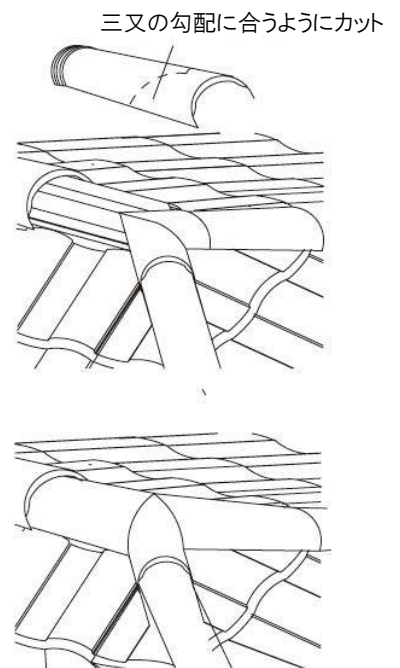
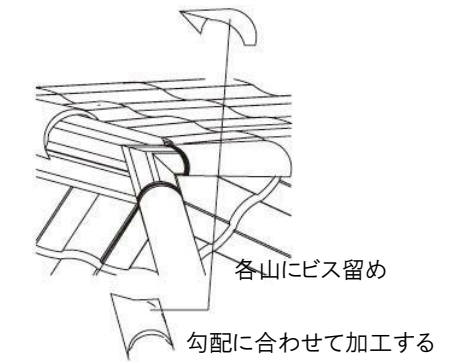
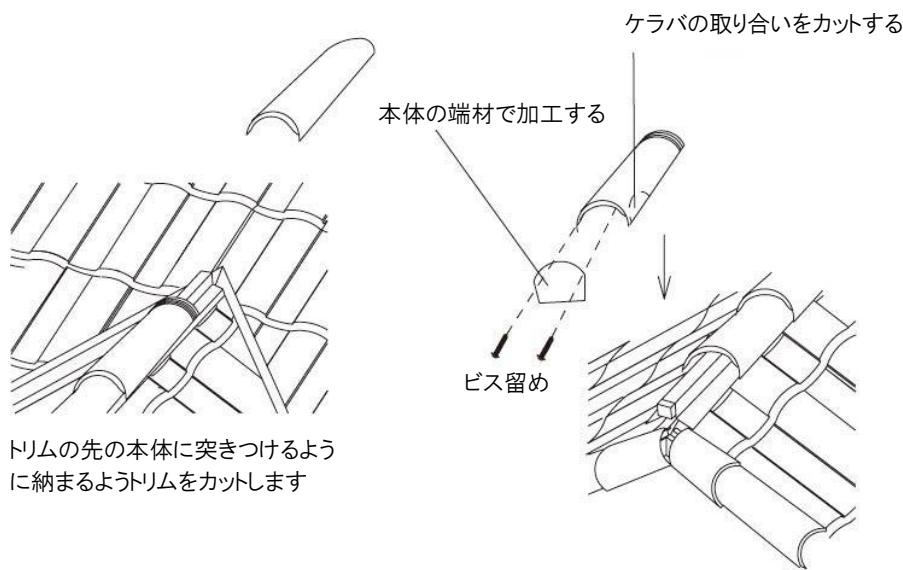
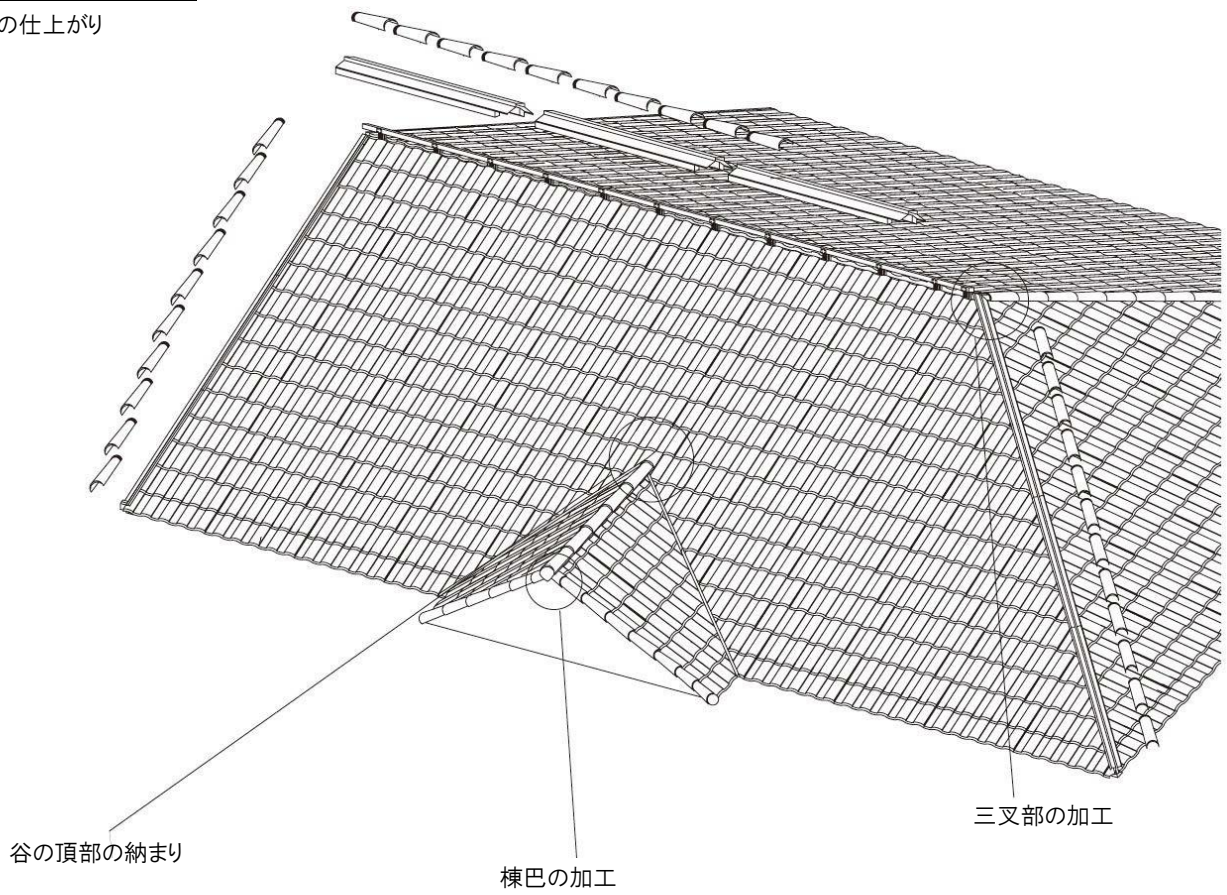


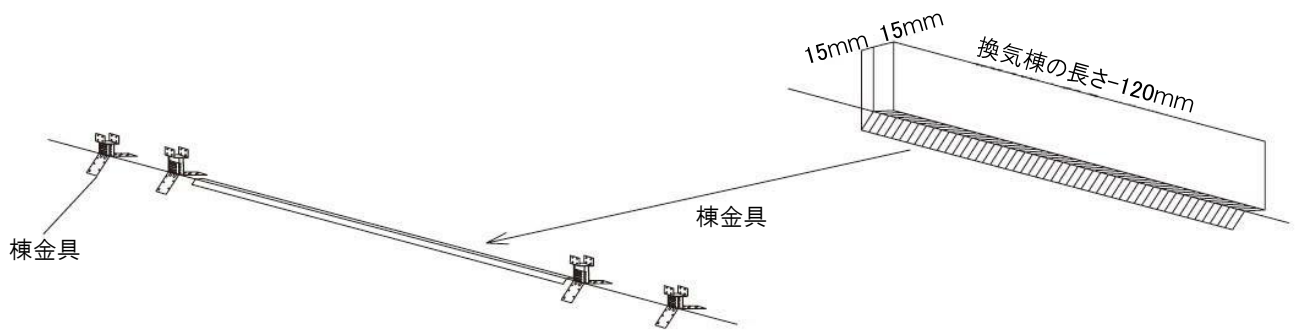
●トリムの施工



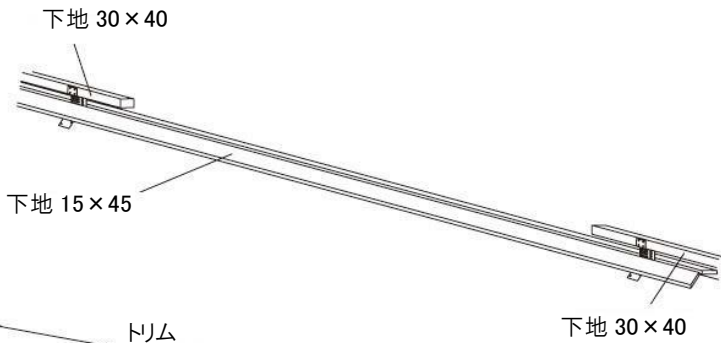
直打ち施工(棧木なし仕様)

取り合い部の仕上げ

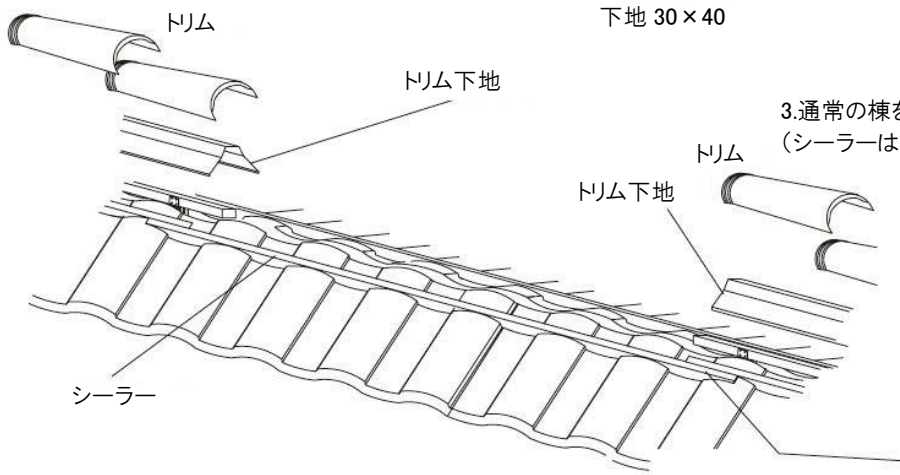




1.換気棟の開口は棟芯より各 15mmずつとりあけてください



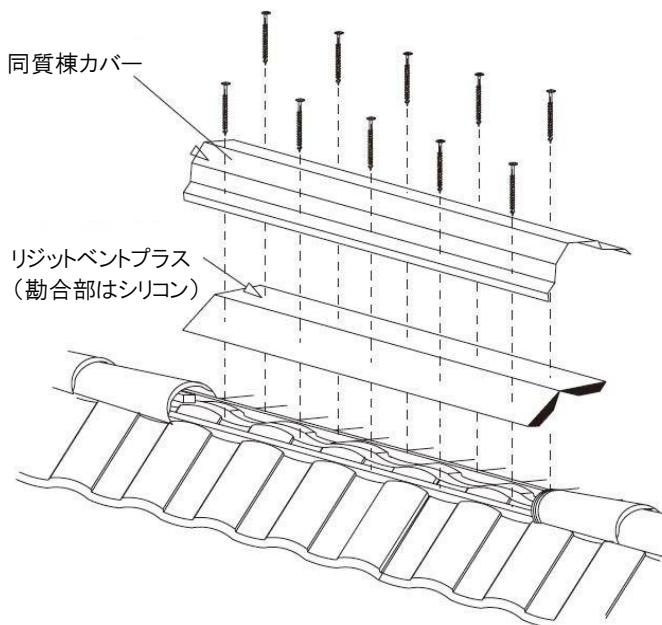
2.木下地を右図のように施工してください



3.通常の棟をトリムまで先に施工します
(シーラーは換気棟の箇所もこの時点で施工します)

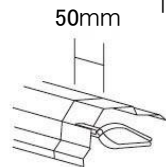
換気棟部のシーラーは通常棟のシーラーの外側を内側に合わせ(左図の通り)通常の棟部のシーラーと 50mm以上重ねる

120mmコーススレッド
(施工後シリコン&タッチアップ)

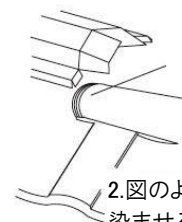


4.下図の通りにリジットベントプラス→同質棟カバーの順で施工し所定の箇所に 120mmのコーススレッドで@455mmで垂木に留めるように施工し、ビス頭をシリコン後補修キットでタッチアップ。端部は下の四角枠の中に図の通りに加工し仕上げます。

同質棟カバー端部の取り合い



1.端部から 50mmまで各折角に鉋を入れて下さい



同質棟カバーはトリムに 80mm以上重ねて施工してください

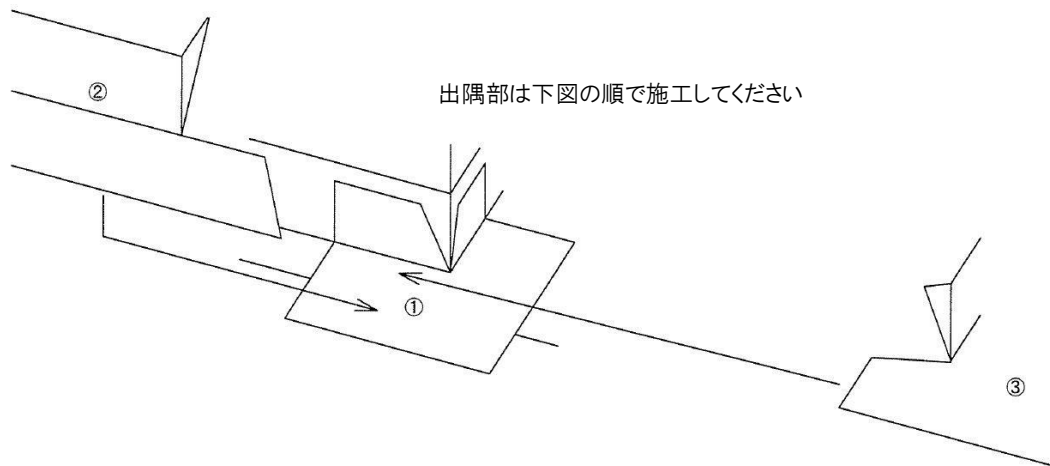
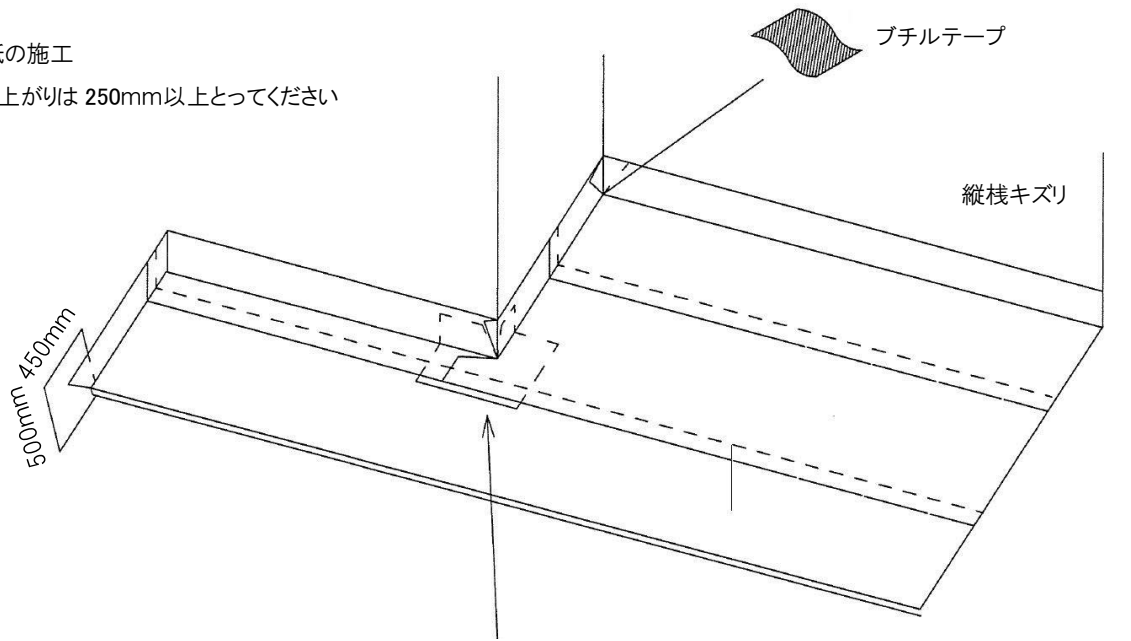
2.図のように鉋を入れた同質棟カバーを馴染ませるように取り付け、ビスもしくはリベットでトリムに締結し、取り合いをシリコン後タッチアップで仕上げる

⑨ 壁際の施工

直打ち施工(桧木なし仕様)

●下地防水紙の施工

壁際の立ち上がりは 250mm以上とってください



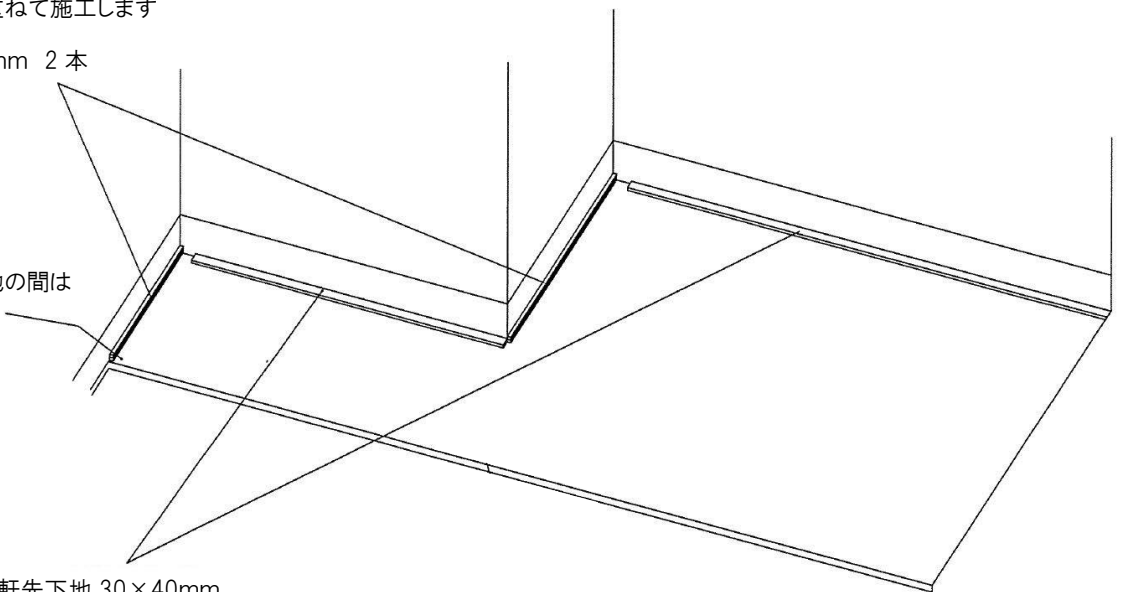
●木下地の施工

流れ壁の木下地は 30×40 を横置きで
ケラバ下地同様に 2 本重ねて施工します

下地 30×40mm 2 本

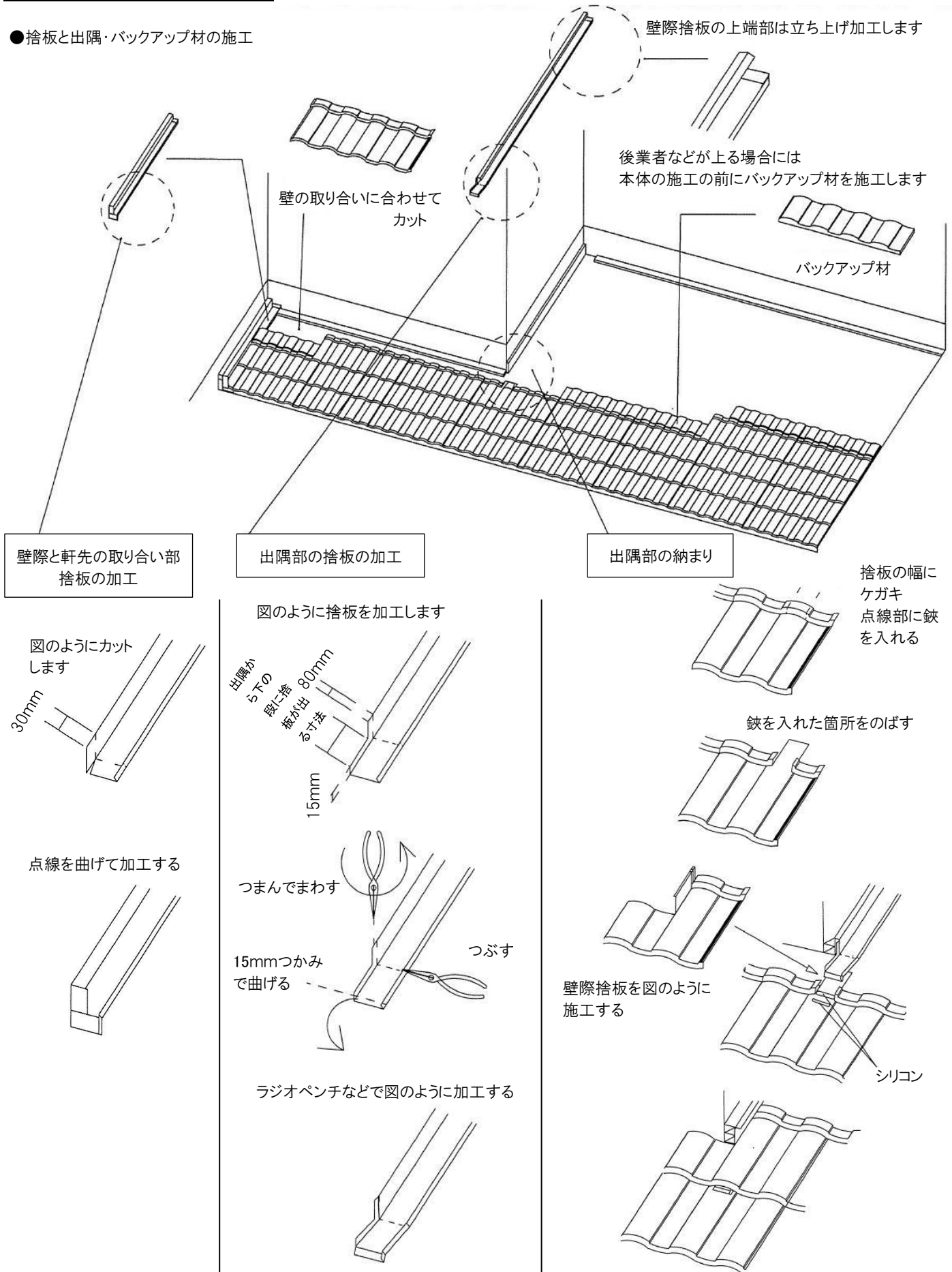
軒先下地と流れ壁の下地の間は
100mm開けてください

軒先下地 30×40mm

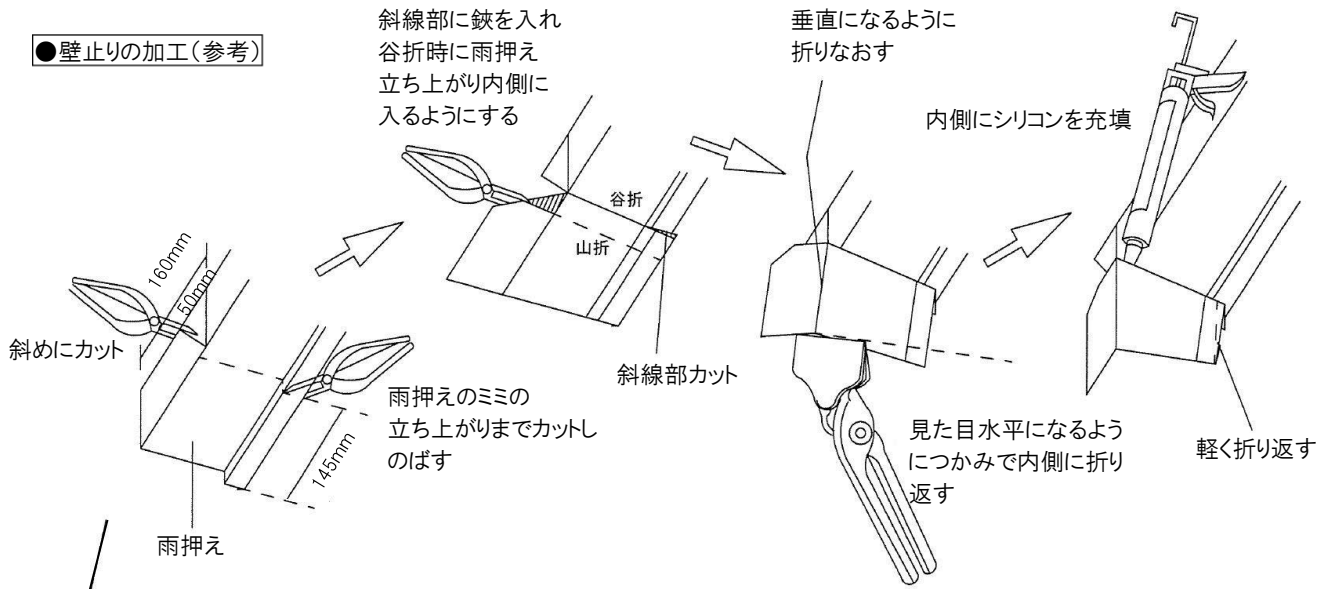


直打ち施工(桟木なし仕様)施工

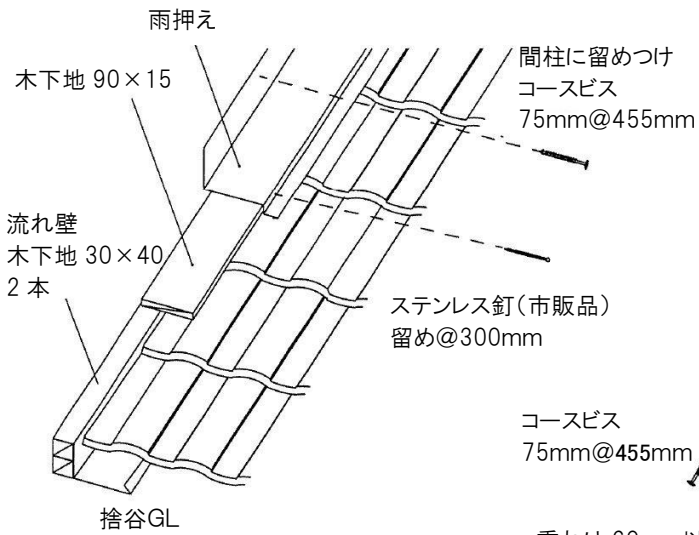
● 捨板と出隅・バックアップ材の施工



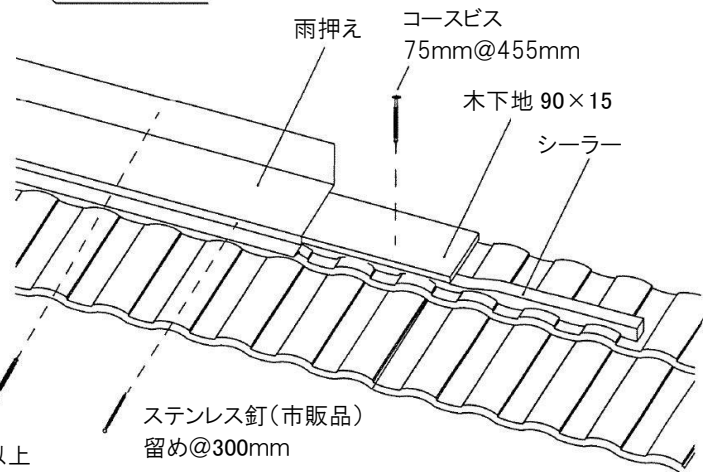
●壁止りの加工(参考)



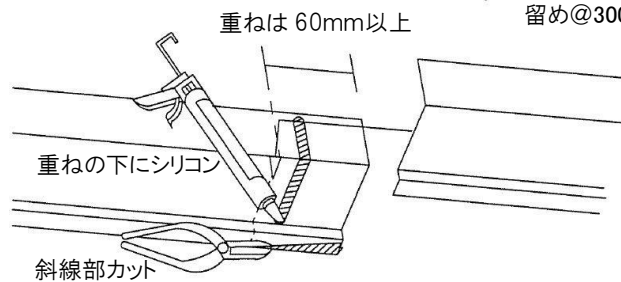
流れ壁際の仕上げ



水上壁際の仕上げ

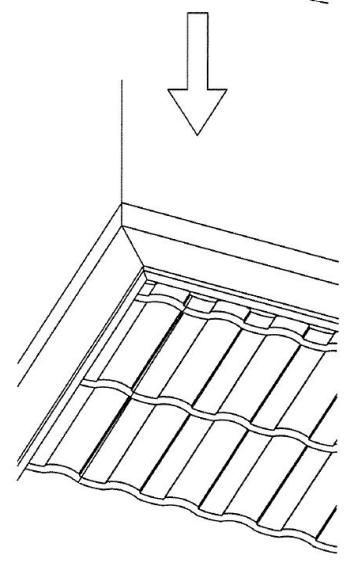
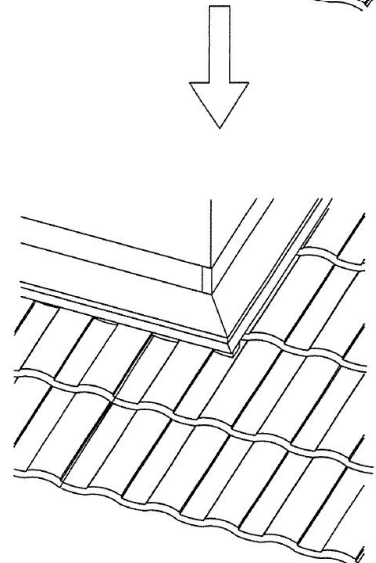
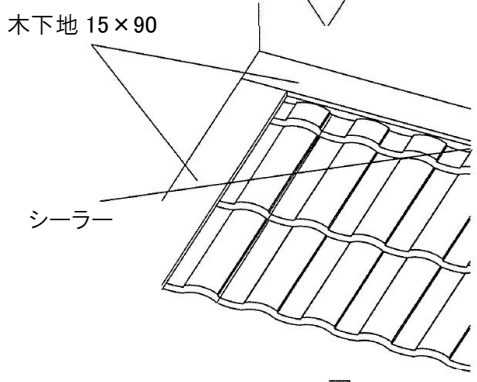
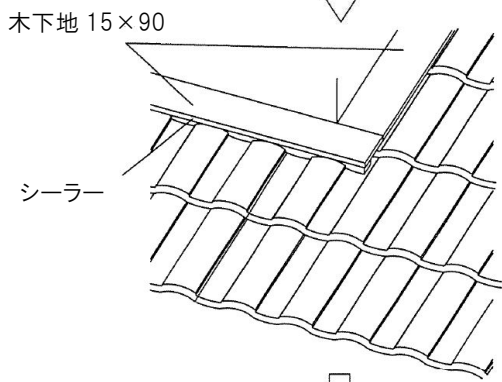
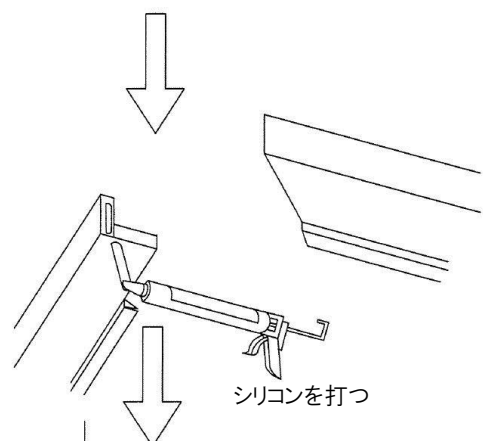
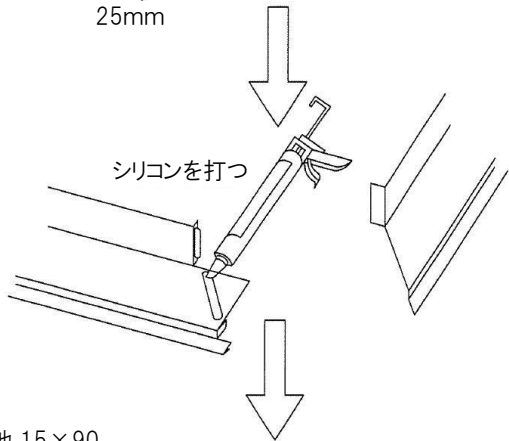
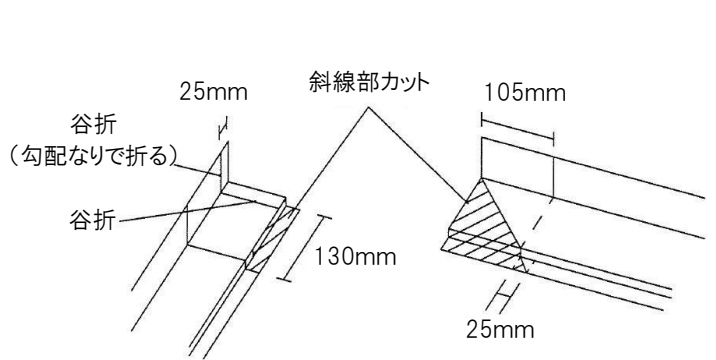
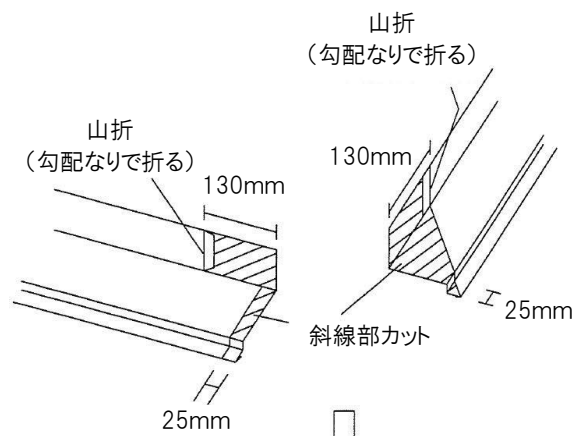


雨押えのジョイント



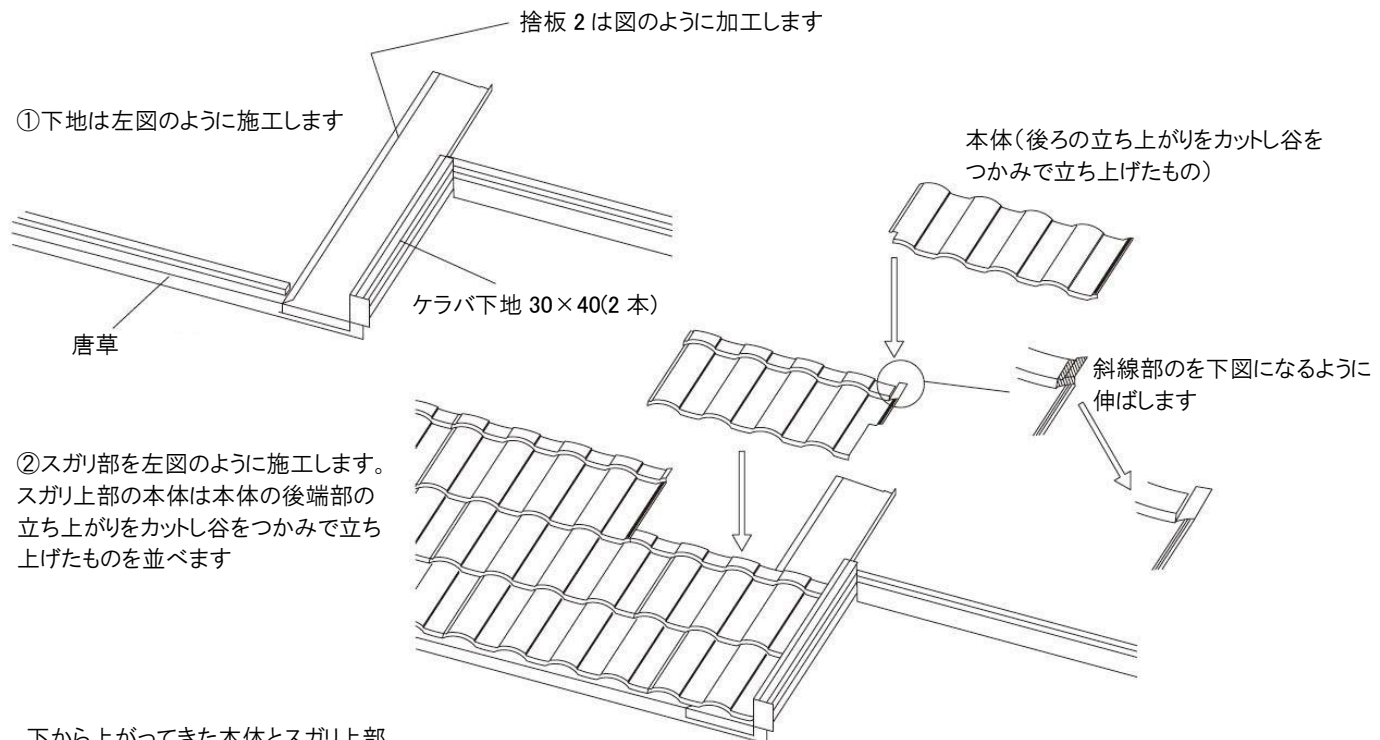
●出隅の施工(参考)

●入隅の施工(参考)

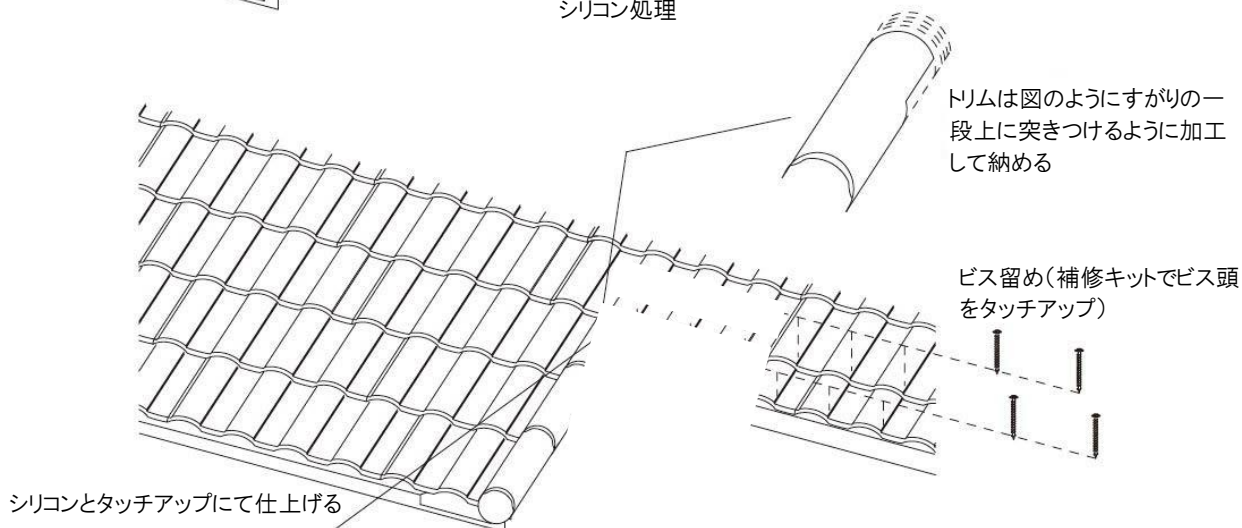
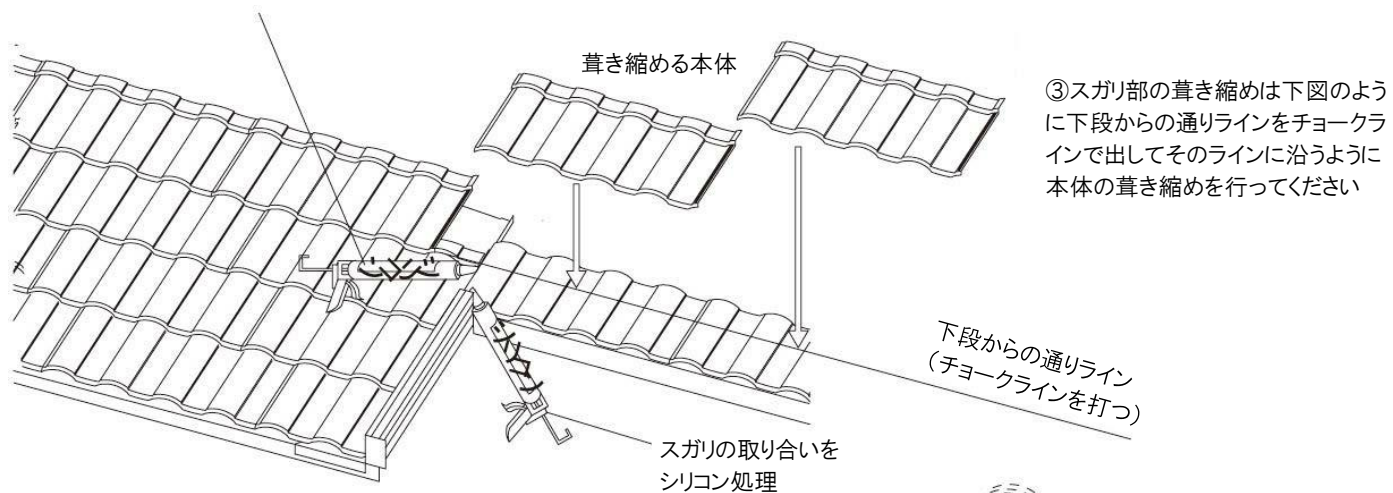


⑩ スガリ部の施工

直打ち施工(桟木なし仕様)

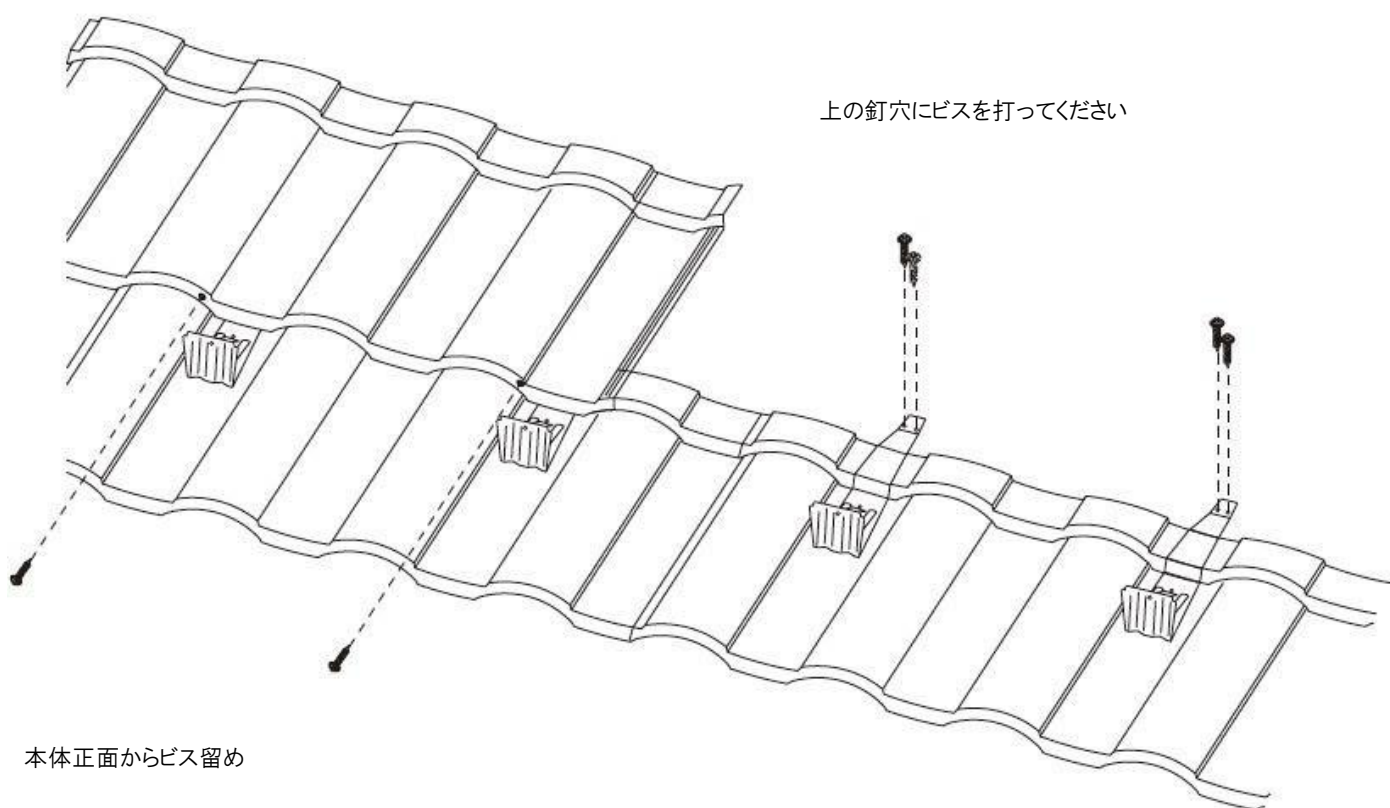


下から上がってきた本体とスガリ上部に納まる本体の重ねめにピンホールができるのでシリコン処理してください



⑪ 雪止めの施工

雪止めは下記の手順で施工してください。



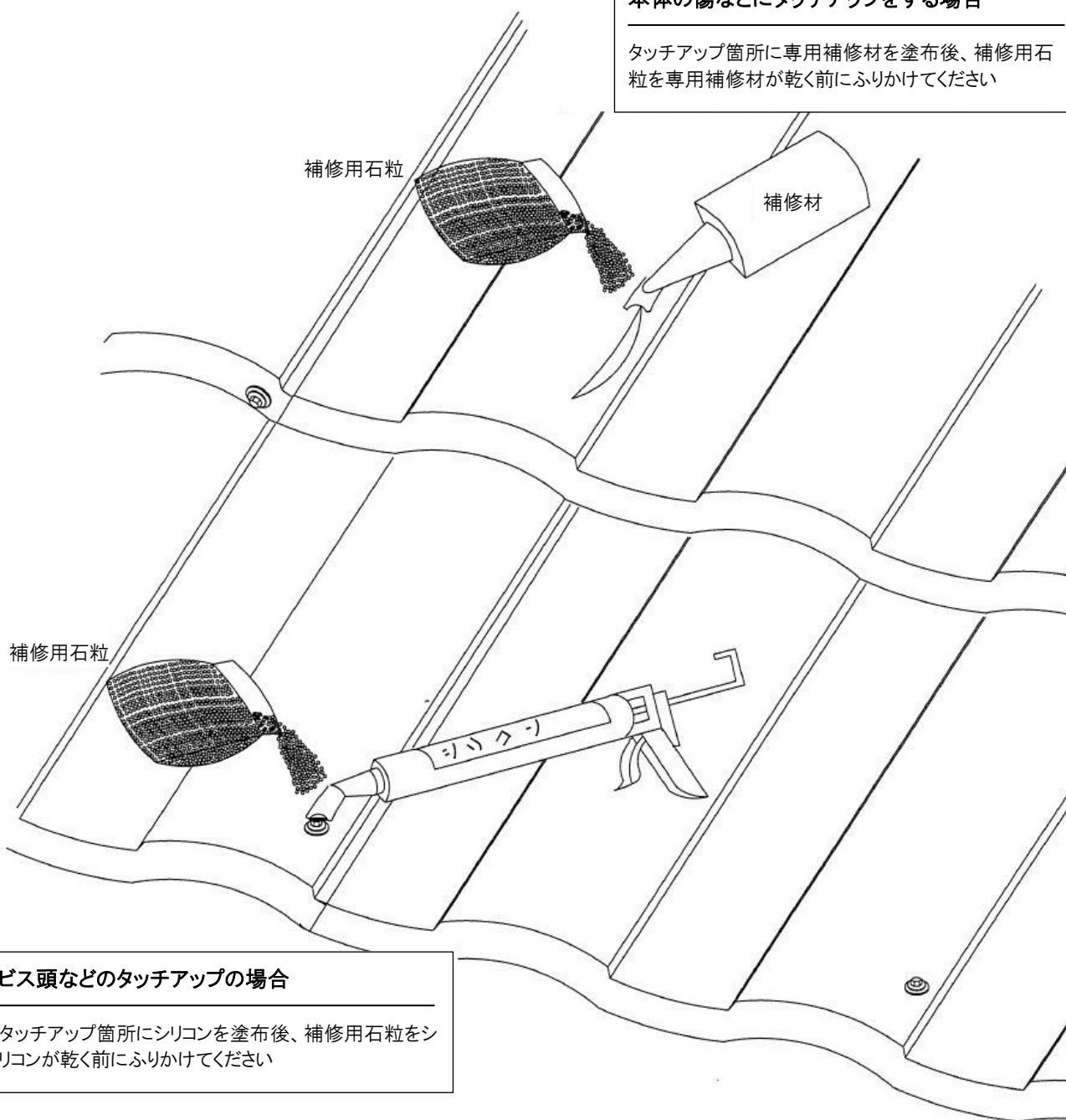
雪止めは基本的に谷部に1つおきに施工していきます。

14 仕上げのタッチアップ

タッチアップは施工中や施工後に発生した傷で、本体の石粒が取れてしまっている場合と、施工時に本体上部からビス留めした箇所へ施す場合と2つの場合があります。

本体の傷などにタッチアップをする場合

タッチアップ箇所に専用補修材を塗布後、補修用石粒を専用補修材が乾く前にふりかけてください



ビス頭などのタッチアップの場合

タッチアップ箇所にシリコンを塗布後、補修用石粒をシリコンが乾く前にふりかけてください

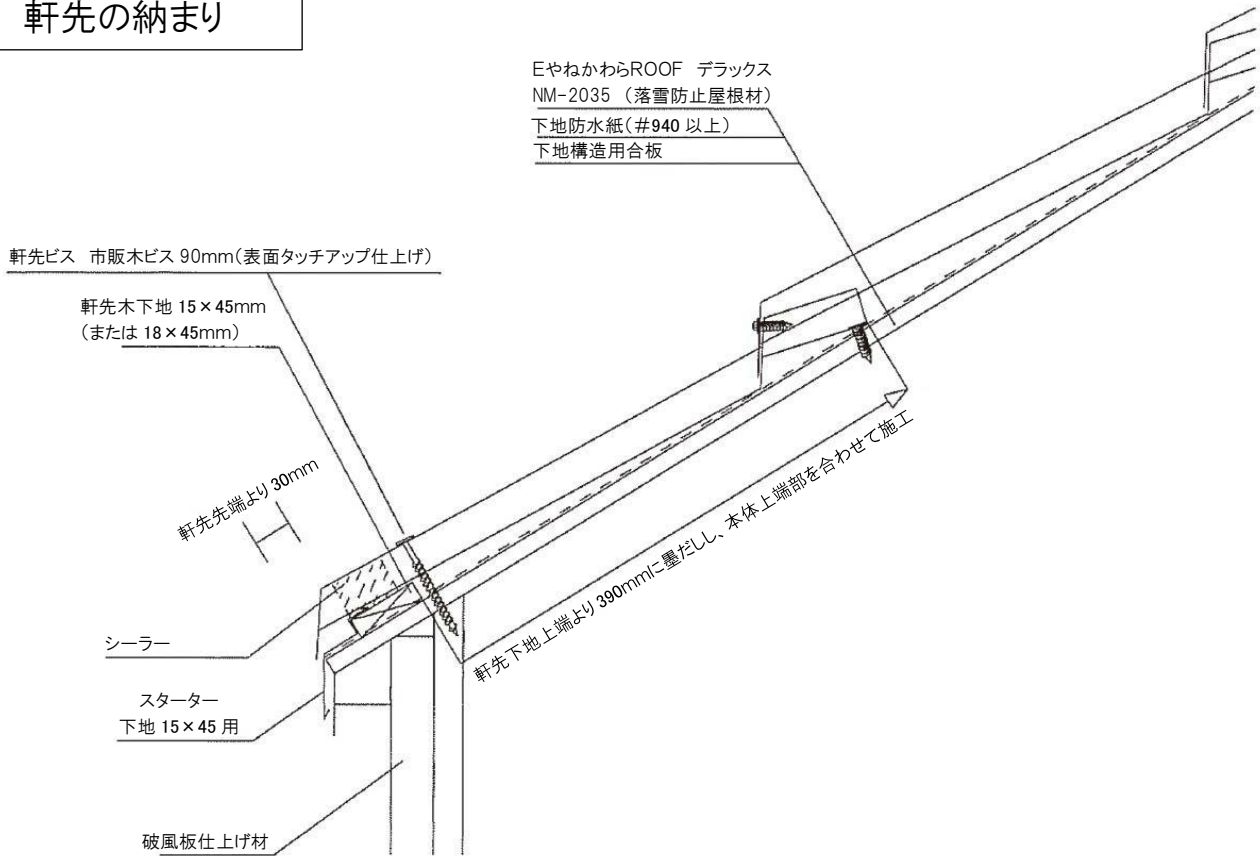
タッチアップ施工後や、一部本体から石のツキムラ（製造時の余分な石粒）が施工後半年前後雨樋の中やカーポートの屋根などに落ちてくる場合がございますが、製品の性能上には問題ありません。

またこれが原因で雨樋を詰まらせたりすることございません。

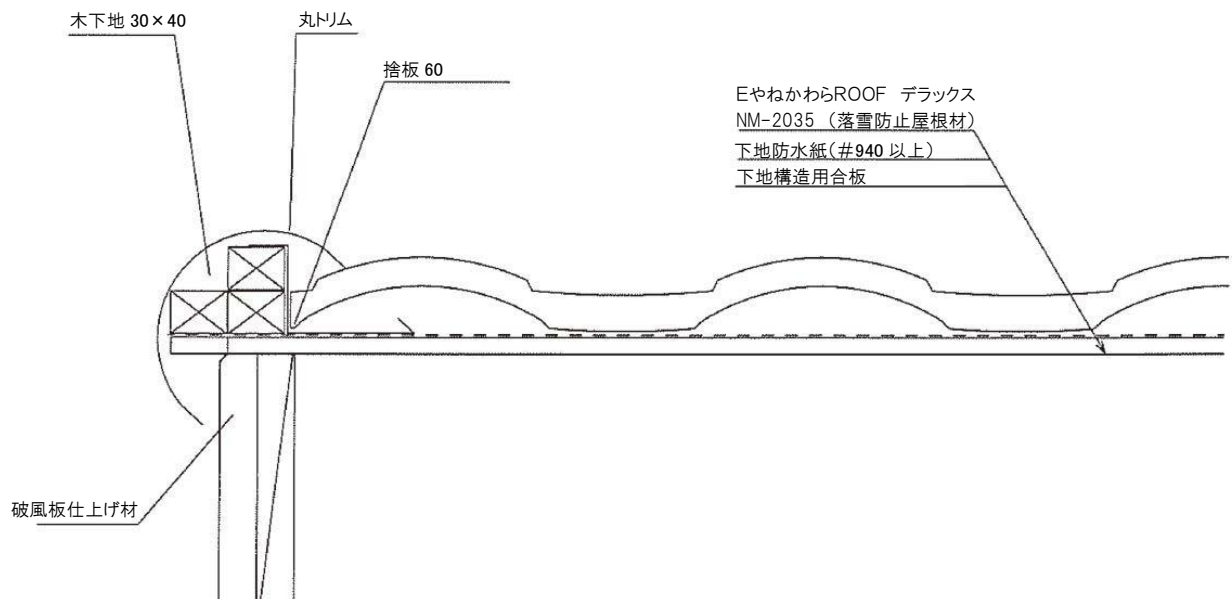
製品の製造工程上必要な現象の為、あらかじめご了承ください。

12 各部の納まり

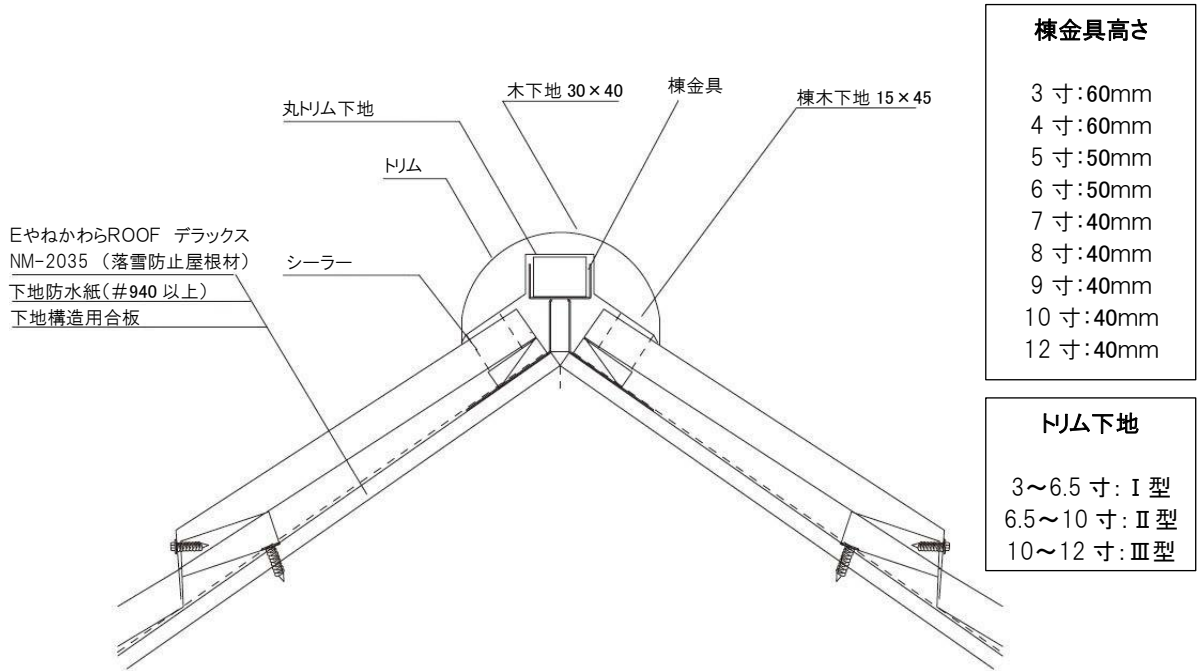
軒先の納まり



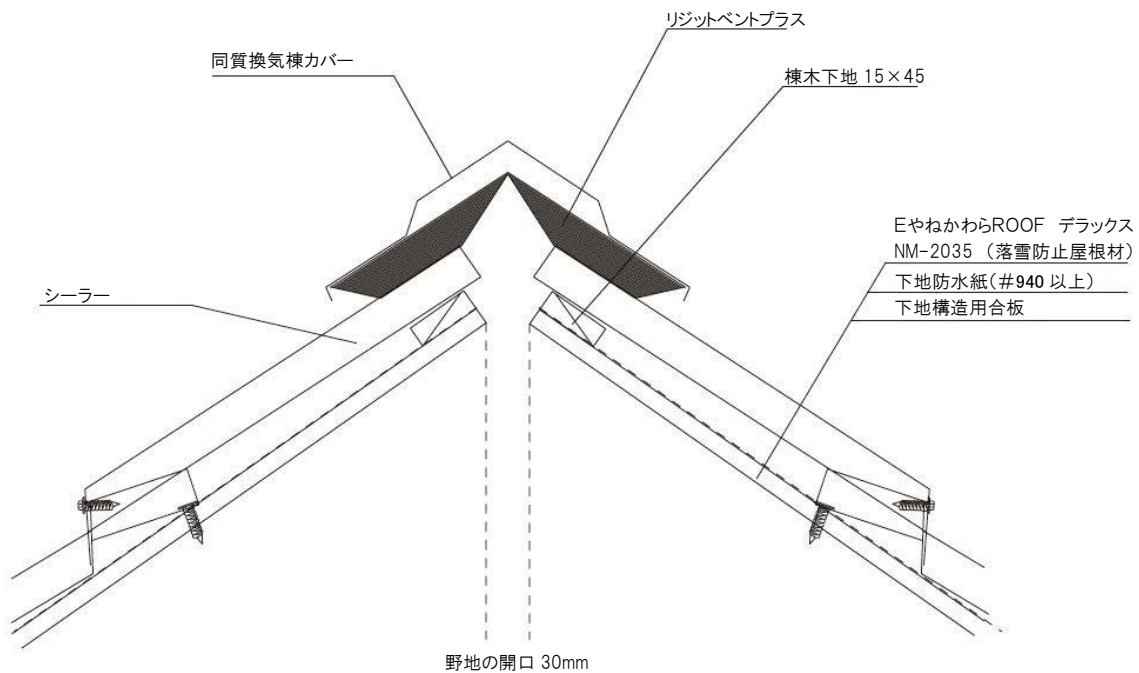
ケラバの納まり



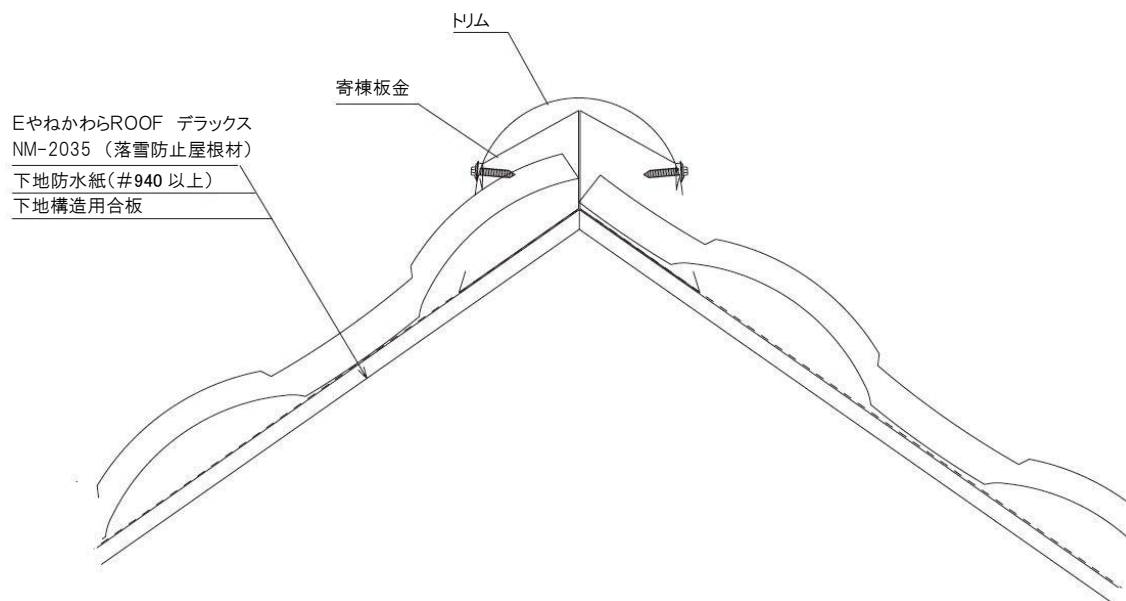
棟の納まり



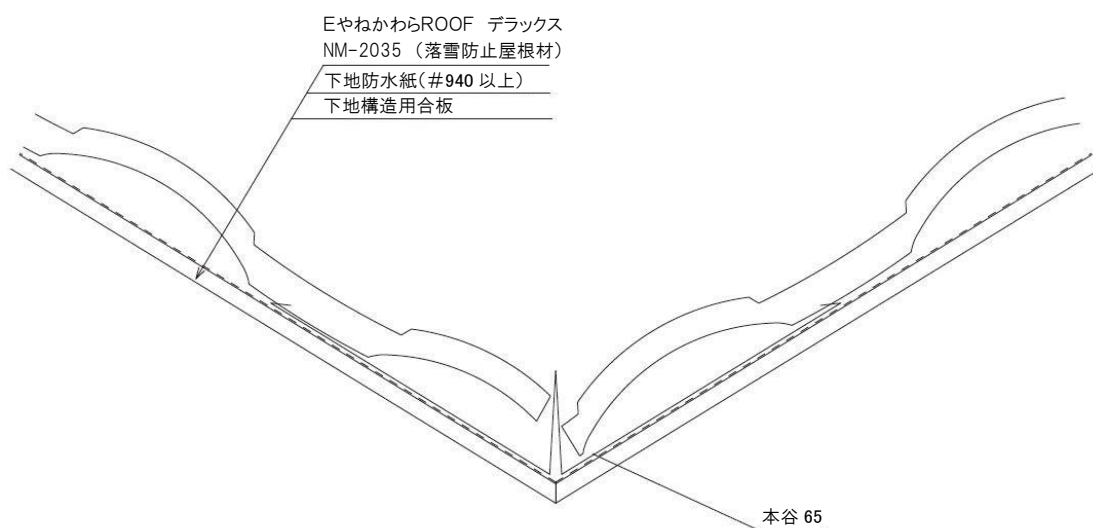
換気棟仕様の納まり



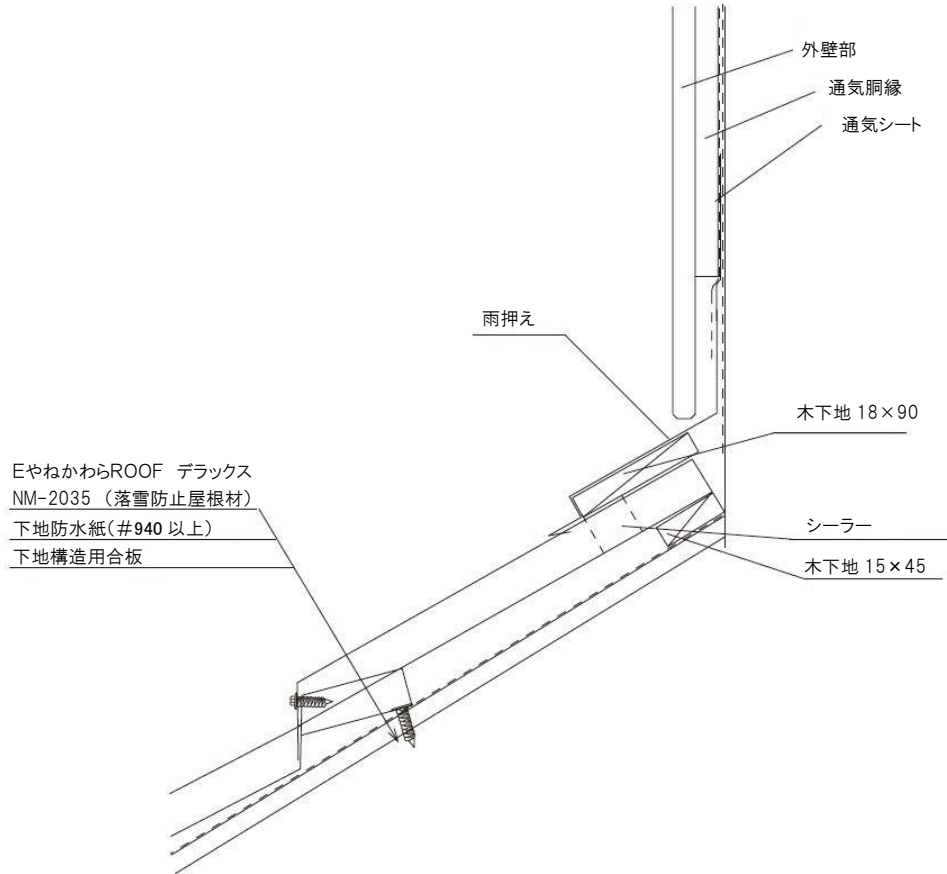
隅棟の納まり



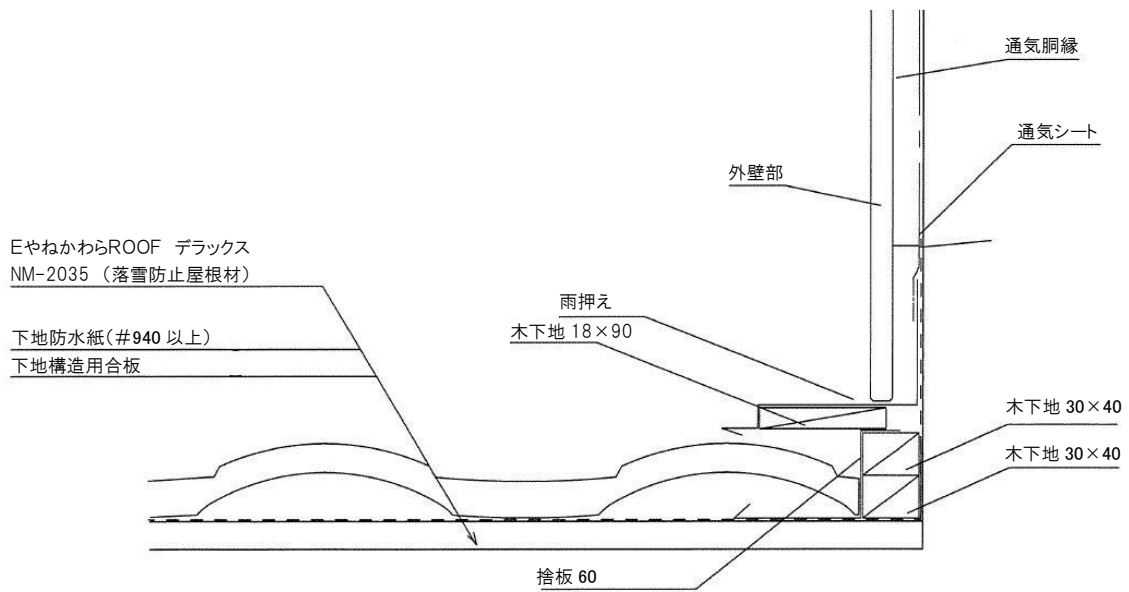
本谷の納まり



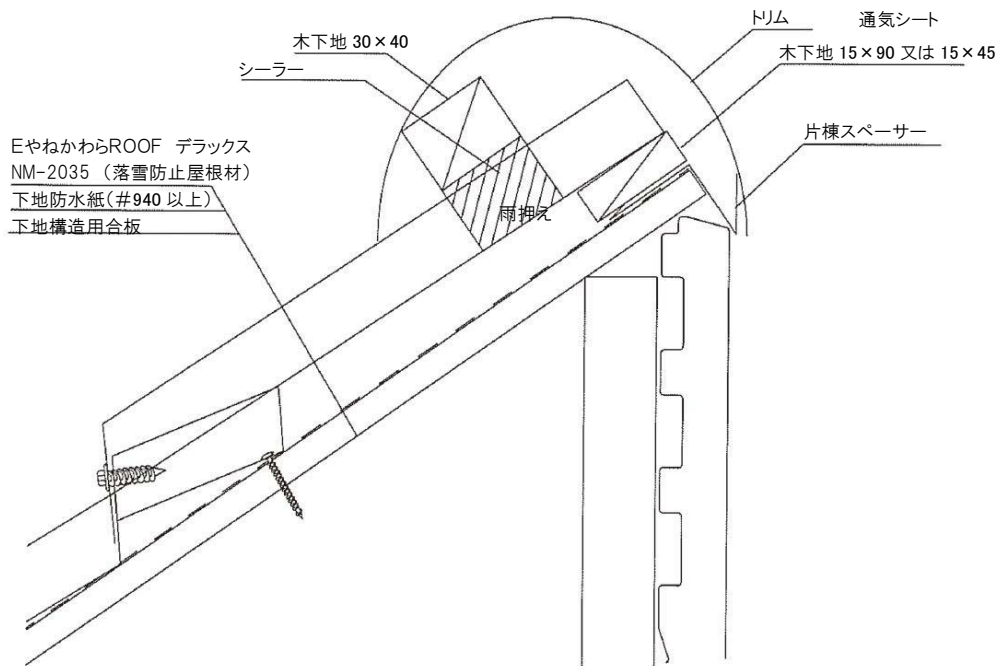
水上壁際の納まり



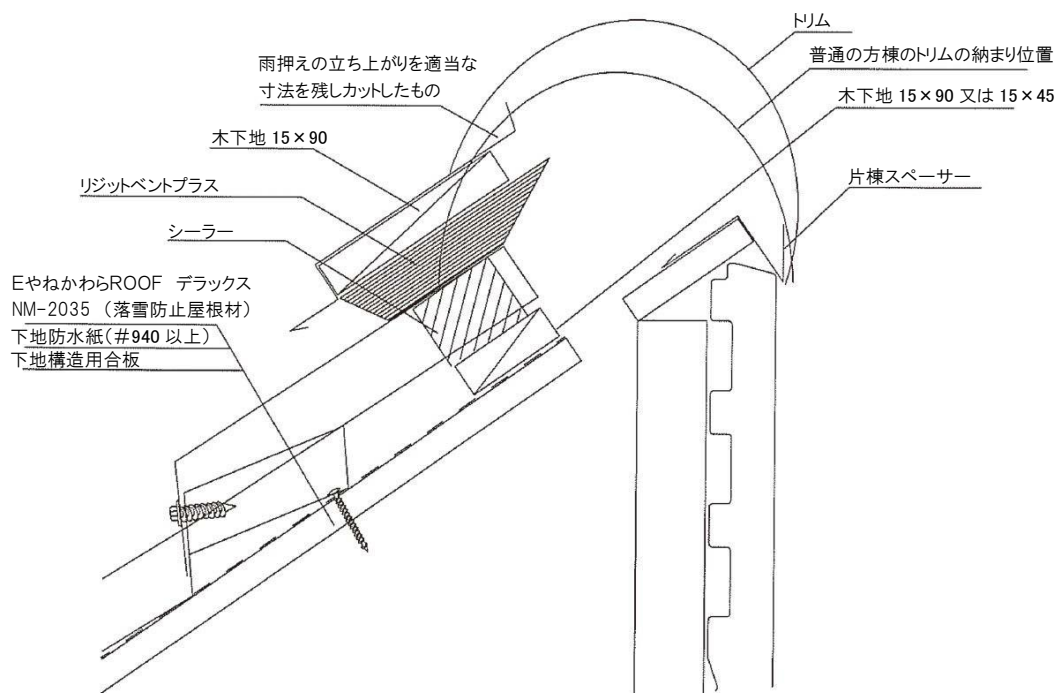
流れ壁際の納まり



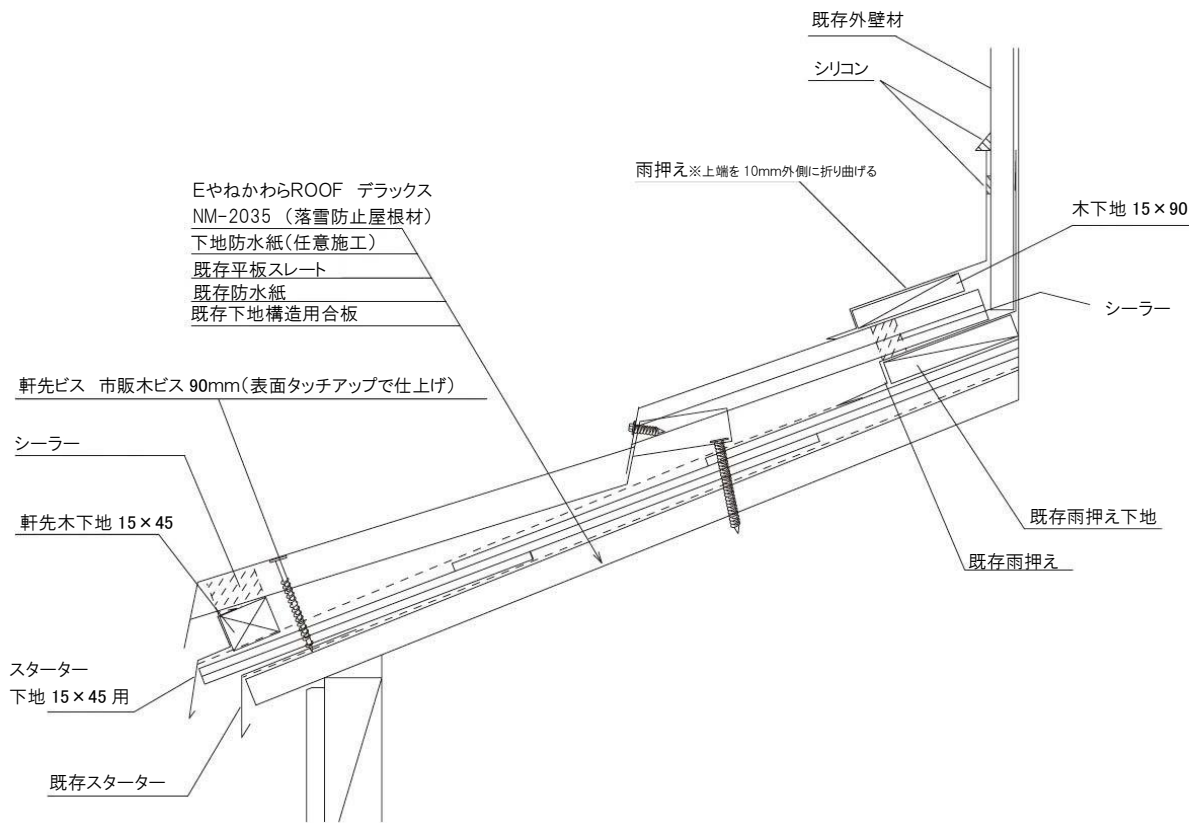
片棟の参考納まり



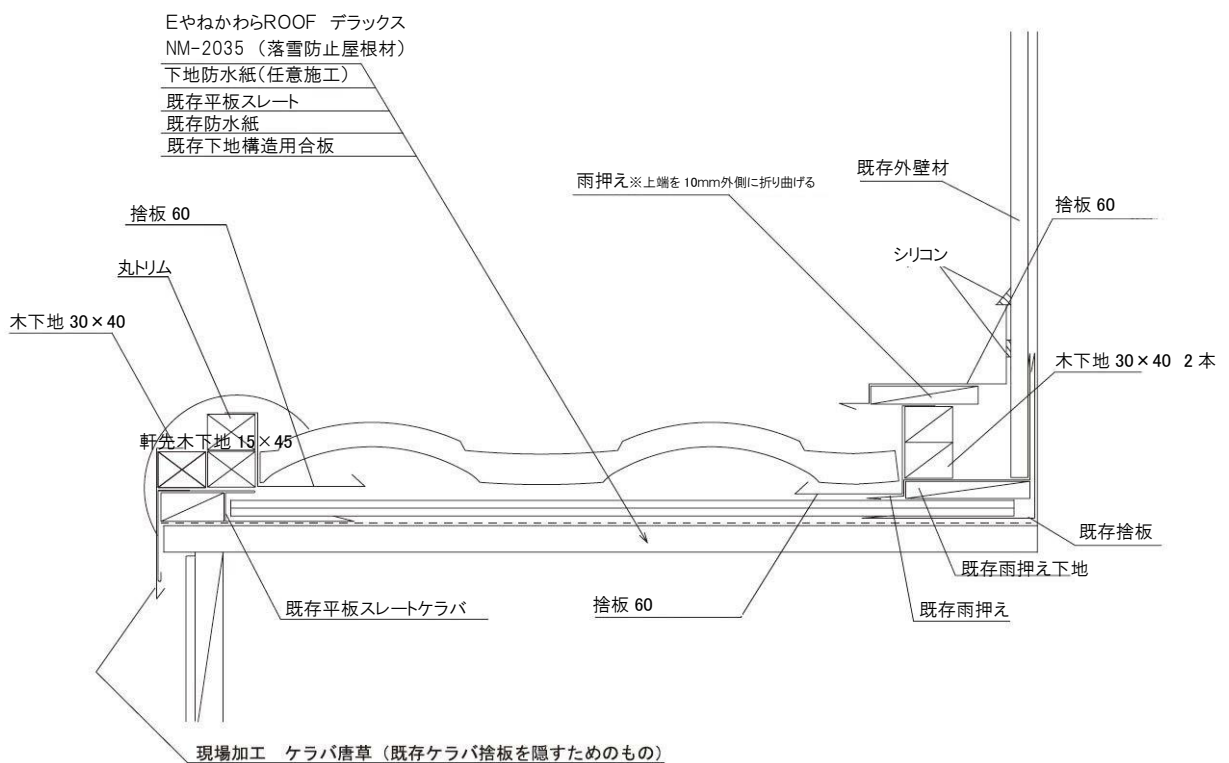
流れ壁際の納まり



平板スレート重葺き施工 縦断面図



平板スレート重葺き施工 横断面図



お客様各位

北海道札幌市東区北6条東2丁目3-1
TEL : 011-721-4311 FAX : 011-742-4714
株式会社キムラ

ハイブリット屋根材「EやねかわらROOF」自然石粒鋼板屋根材の取り扱いについて

1. 「EやねかわらROOF」自然石粒鋼板屋根材を設置する建築物の確認申請時の名称・他
 - ・名称：天然石粒鋼板屋根材（落雪防止屋根材）と明記すること
 - ・構造等の名称：自然石粒・アクリル系樹脂化粧／アルミニウム－亜鉛合金メッキ鋼板
 - ・認定番号：NM－2035
 - ・製品名：EやねかわらROOF フラット
EやねかわらROOF デラックス
2. 申請をする地域の設計垂直積雪量が1 m以上の建築物は軒先が隣地の境界より1. 1 m以上離れていなければならない。1. 1 m未満の場合は雪止め金物を設置すること。
3. 1 m未満の設計垂直積雪量の場合、2の制約を受けない。
4. 自然石粒鋼板屋根材は「無落雪屋根」ではなく雪止め金物設置時と同等の扱いである。
5. 自然石粒鋼板屋根材を建築物に施工後、その物件で雪によるトラブルが発生した場合は、設計者及び建築主が責任を持って対処する事。



vol. 1 2016年12月